

平成27年度

事業年報

公益財団法人 岡山県健康づくり財団

は じ め に

当財団は平成3年8月に設立されて以来、県民皆様の疾病予防や健康づくりを支援するとともに県や市町村の保健衛生、環境施策を補完する事業により地域に貢献することを目指して、健康診断事業をはじめ、各種環境検査事業、病院事業、健康づくり支援事業等に取り組んでまいりました。

この冊子は、当財団の平成27年度における事業内容の記録として作成したものであります。

ご高覧のうえご指導を賜りますとともに業務の参考としていただければ幸甚に存じます。

今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 石川 紘

目 次

I	事業内容	1
II	役員名簿	2
III	組織	3
1	組織図	3
2	職種別、組織別職員数	4
IV	事業報告	
1	保健部	5
(1)	住民健診	5
1.	特定健診・後期高齢者健診	5
2.	肝炎ウイルス検査	7
(2)	保健指導	8
(3)	一般健康診断	9
(4)	特殊健康診断	10
(5)	胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）	11
(6)	胃がん検診	15
(7)	子宮がん検診	18
(8)	乳がん検診	21
(9)	大腸がん検診	24
(10)	前立腺がん検診	27
(11)	骨粗鬆症検診	29
(12)	学校保健検査	30
1.	尿検査	30
2.	寄生虫検査	32
3.	貧血検査	34
4.	心臓検診	35
5.	小児生活習慣病予防健診	36
(13)	先天性代謝異常等検査	38
2	環境部	40
(1)	飲料水検査	40
(2)	簡易専用水道検査	42

(3) 浄化槽法定検査	4 4
(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査	4 6
(5) 産業排水検査	4 8
(6) 河川水検査	5 0
(7) 食品検査	5 2
(8) 腸内細菌検査等	5 4
(9) その他の検査	5 5
(10) 精度管理	5 7
3 食鳥検査事業	5 9
4 附属病院	6 2
(1) 外来状況	6 2
(2) 入院状況	6 3
(3) リハビリテーション	6 4
(4) 先進の医療機器による検査	6 4
(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供	6 4
(6) 地域連携の推進	6 5
(7) 結核医療連携拠点病院の指定	6 5
(8) 指導・相談	6 5
(9) 財団各部門との連携	6 6
(10) 難病相談・支援事業	6 6
5 南部健康づくりセンター	6 7
(1) 健康増進部門	6 7
1. ヘルスチェックの状況	6 7
2. 施設自由（フリー）利用状況	6 9
3. お手軽教室	7 0
4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室	7 2
(2) 教育・研修部門	7 6
1. 派遣事業	7 6
2. 図書資料室（沼田文庫）	7 7
3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室	7 7
4. 研究室の開放	7 7
(3) 調査・研究部門	7 7
1. 業績	7 7

(4) スポーツ医科学部門	78
1. 受診者数及びその内訳	78
(5) 健康診断（人間ドック）部門	79
1. 人間ドック	79
2. 脳ドック	83
3. らせんCT胸部検診	84
6 普及啓発事業	85
(1) 財団の広報	85
(2) 結核予防に関する事業	85
(3) がん予防に関する事業	86
(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）	87
(5) 「健康おかやま21」への参加	87
(6) 助成事業	88
(7) 会議等の開催	89

I 事業内容

- (1) 健康づくり及び結核、がん、循環器疾患等の予防に関する知識の普及啓発及び調査研究
- (2) 健康づくりの実践活動に対する指導及び援助
- (3) 結核、がん、生活習慣病等の健康診査
- (4) 保健及び医療に関する情報の収集及び提供
- (5) 保健医療従事者及び健康づくり指導者の養成及び研修
- (6) 結核及び呼吸器疾患を中心とする医療
- (7) 保健及び医療に関する臨床検査
- (8) 食品衛生に関する試験検査
- (9) 浄化槽法定検査事業
- (10) 飲料水水質の試験検査
- (11) 簡易専用水道検査事業
- (12) 環境計量証明事業
- (13) その他生活環境の保全に関する試験検査
- (14) 食鳥検査事業
- (15) その他財団の目的を達成するために必要な事業

II 役員名簿

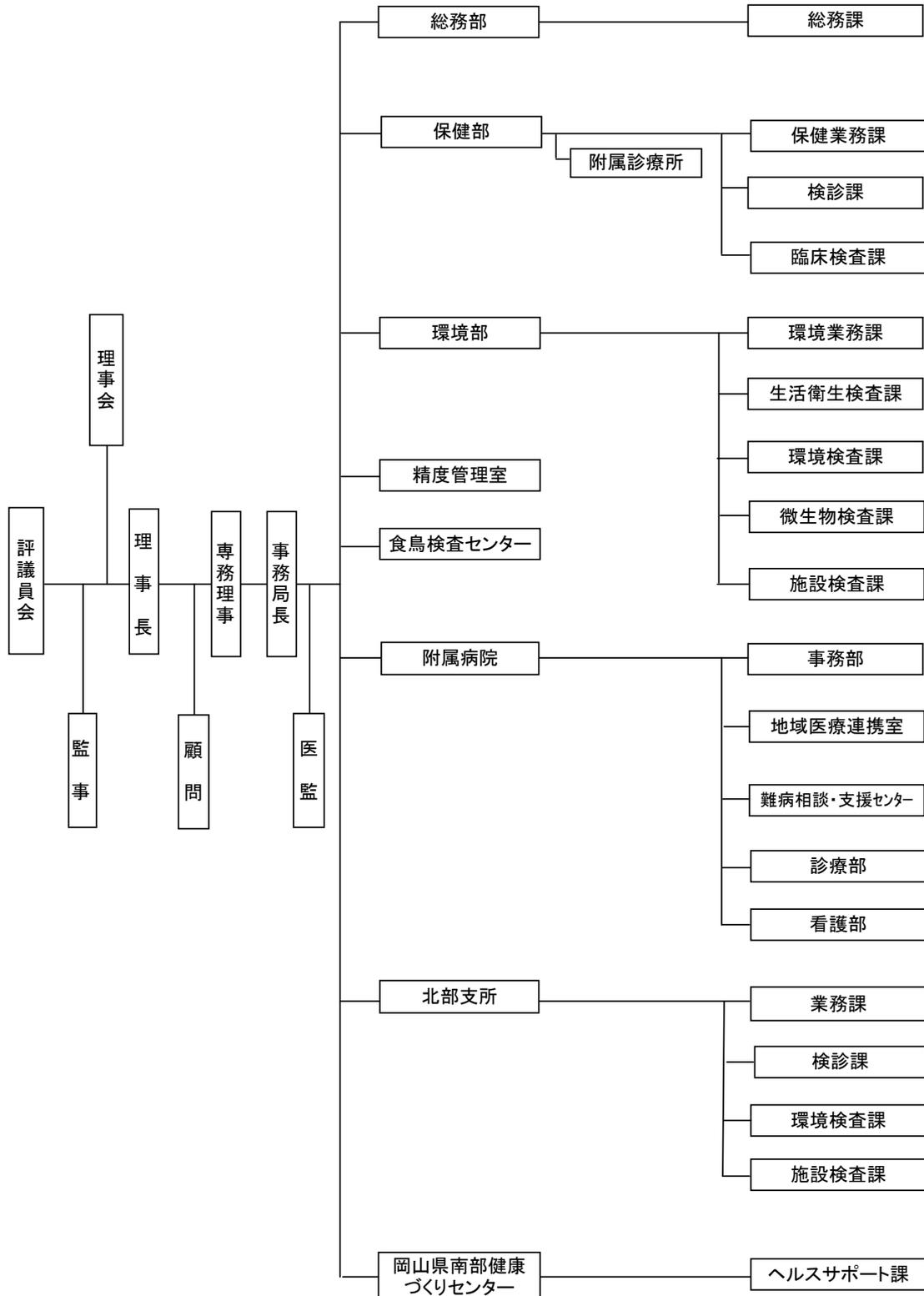
平成27年4月1日現在

役職名	氏名	備考
評議員	伯野 春彦	岡山県保健福祉部長
〃	清水 信義	岡山県医師会副会長
〃	難波 義夫	岡山県病院協会会長
〃	内田 耕三郎	岡山市医師会長
〃	松尾 直光	津山市医師会長
〃	吉野 正	元岡山大学医学部長
〃	内山 登	岡山県議会議員
〃	福永 仁夫	川崎医科大学長
〃	酒井 昭則	岡山県歯科医師会長
〃	赤澤 昌樹	岡山県薬剤師会長
〃	黒田 晋	岡山県市長会長
〃	河島 建一	岡山県町村会長
〃	藤本 貴子	岡山県愛育委員連合会長
〃	中川 初美	岡山県栄養改善協議会長
理事長 (代表理事)	石川 紘	岡山県医師会長
専務理事 (業務執行理事)	大森 弘介	岡山県健康づくり財団専務理事
理事	阪本 文雄	山陽新聞社会事業団専務理事
〃	岡崎 邦泰	日本乳がん検診学会名誉会員
〃	森 恵子	岡山県栄養士会長
〃	石本 傳江	岡山県看護協会会長
〃	守谷 欣明	名誉顧問
〃	守安 秀徳	岡山県健康づくり財団環境部長
〃	西井 研治	医監 (兼)岡山県健康づくり財団附属病院長
〃	發坂 耕治	岡山県健康づくり財団保健部長 (兼)岡山県南部健康づくりセンター長
監事	有本 耕平	弁護士
〃	小川 洋一	公認会計士・税理士

III 組織

1 組織図

平成27年4月1日現在



2 職種別・組織別職員数

平成27年4月1日現在

	事務職	医師	保健師・ 看護師・ 准看護師	放射線 技師	臨床 検査技師	理学 療法士	環境 検査技師	薬剤師	栄養士・ 調理員	介護職	運動 指導員等	食鳥 検査員	合 計
総務部	12												12
保健部	32	5	24	12	25	2							100
環境部	13				1		44						58
食鳥検査 センター	1						1					14	16
附属病院	15	5	42	1		2		2	11	15			93
北部支所	9		3	1			16						29
南部健康 づくりセ ンター	10	3	6	4	3				2		5		33
合 計	92	13	75	18	29	4	61	2	13	15	5	14	341

IV 事業報告

1 保健部

(1) 住民健診

1. 特定健診・後期高齢者健診

1) 健診概要

目的：生活習慣病の予防

対象：特定健診：医療保険加入者で、実施年度中に40～75歳になる者
後期高齢者健診：76歳以上の者

補足)・対象年齢の誕生日以前等での振り分けは各市町によって異なる。

・医療保険加入者：国保加入者及び、被用者保険の被扶養者を対象として集計している。

2) 実施状況

13市町から委託を受け、19,866人の健診を実施し、前年度に比べ966人(5.11%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
特定健診	国保	12,989	12,672	12,149	12,120	12,346
	他健保	855	911	1,447	1,394	1,595
	その他	284	212	334	1,575	2,309
後期高齢者健診		3,966	3,963	3,795	3,811	3,616
計		18,094	17,758	17,725	18,900	19,866

② メタボリックシンドローム判定内訳 (国保、他健保)

(人)

区分	性別	受診者数	メタボリックシンドローム判定結果内訳					
			該当		予備群		非該当	
国保	男性	5,031	1,128	22.4%	816	16.2%	3,087	61.4%
	女性	6,743	470	7.0%	357	5.3%	5,916	87.7%
他健保	男性	186	50	26.9%	32	17.2%	104	55.9%
	女性	3,576	200	5.6%	140	3.9%	3,236	90.5%
合計	男性	5,217	1,178	22.6%	848	16.3%	3,191	61.2%
	女性	10,319	670	6.5%	497	4.8%	9,152	88.7%
	計	15,536	1,848	11.9%	1,345	8.7%	12,343	79.4%

3) 健診方法

① 健診項目

・基本的な健診の項目

問診

身体計測 (身長、体重、腹囲、BMI。後期高齢者健診は腹囲なし)

理学的所見 (身体診察)

血圧 (収縮期血圧、拡張期血圧)

血中脂質検査 (中性脂肪、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール)

肝機能検査 (AST、ALT、 γ -GT)

血糖検査 (空腹時血糖、ヘモグロビンA1c。いずれかの項目の実施で可)

尿検査 (尿糖、尿蛋白)

・詳細な健診の項目 (医師の判断による追加項目)

貧血検査 (赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値)

心電図検査

眼底検査

② メタボリックシンドロームの判定基準

・必須条件

腹囲： 男性 85 cm以上、女性 90 cm以上

・以下のうち2つ以上が該当

血糖： 空腹時血糖 110 mg/dl 以上、随時の場合は HbA1c 6.0%以上

脂質： 中性脂肪 150 mg/dl 以上、または HDL-コレステロール 40 mg/dl 未満

血圧： 収縮期 130 mmHg 以上、または 拡張期 85 mmHg 以上

※ 脂質・血圧は、いずれかまたは両方

2. 肝炎ウイルス検査

1) 検査概要

目的： B型・C型肝炎から肝硬変・肝がん等に悪化するのを予防するため
(B型・C型肝炎の早期発見、早期治療)

対象： 当年度40歳になる者(節目検診)又は過去に受診したことがない者

2) 実施状況

12市町から委託を受け実施した。

B型肝炎検査は、2,568人の健診を実施し、前年度に比べ222人(9.46%)の増加であった。

C型肝炎検査は、2,570人の健診を実施し、前年度に比べ224人(9.45%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
肝炎ウイルス検査	B型肝炎検査	1,498	2,418	2,190	2,346	2,568
	C型肝炎検査	1,494	2,419	2,192	2,346	2,570

② 陽性率

B型肝炎検査： 陽性者数は11人で、陽性率は0.43%であった。

C型肝炎検査： 感染者数は1人で、感染率は0.04%であった。

3) 検査方法

B型肝炎検査： HB_s抗原検査(定性)

C型肝炎検査： 問診、HCV抗体検査(CLEIA法)、HCVコア蛋白測定によるHCV抗原検査、HCV-RNA定量検査

(2) 保健指導

1) 指導概要

目的： 対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう支援する

対象： 健康診断の結果、健康の保持に努める必要がある者
ただし、特定保健指導については医療保険者により、動機づけ支援または積極的支援に階層化された者

2) 実施状況

地域では265人の保健指導を実施し、前年度に比べ31人（10.47%）の減少であった。

職域では1,502人の保健指導を実施し、前年度に比べ385人（34.47%）の増加であった。

全体では前年度に比べ354人（25.05%）の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	142	134	260	296	265
職域	1,024	1,057	1,260	1,117	1,502
計	1,166	1,191	1,520	1,413	1,767

② 年齢階層別実施状況

(人)

積極的支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	5	11	20	0	36
	女性	3	4	5	0	12
職域	男性	381	275	32	0	688
	女性	62	48	19	0	129
計		451	338	76	0	865

動機付け支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	4	7	63	45	119
	女性	1	8	49	40	98
職域	男性	232	120	37	4	393
	女性	136	102	51	3	292
計		373	237	200	92	902

その他保健指導		39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
職域	男性	56	0	0	0	56
	女性	62	4	4	4	74
計		118	4	4	4	130

3) 指導方法

期間： 6ヵ月間

支援： 面接 … 個別または8人以下のグループ

通信 … 手紙、メール、電話

4) メタボリックシンドローム予防セミナー 受講者 207人

(3) 一般健康診断

1) 健診概要

目的： 事業所就業者の健康管理と疾病の早期発見

対象： 事業所就業者

2) 実施状況

84,823 人の健診を実施し、前年度に比べ 20,728 人 (32.34%) の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
実施人員	41,190	55,734	66,391	64,095	84,823

3) 健診方法

① 健診項目

労働安全衛生法で定める検査項目を基本としている。

② 健診区分

区分	時期	項目	備考
雇入れ時	雇入れ時	① 既往、業務歴の調査 ② 自覚症状	労働者の採用時に実施
一般	1年以内に1回	③ 身長、体重、BMI 腹囲、視力、聴力 ④ 胸部X線、喀痰 ⑤ 血圧、尿糖、尿蛋白 ⑥ 貧血検査 ⑦ 肝機能検査 ⑧ 血中脂質検査 ⑨ 血糖検査 ⑩ 心電図検査	④を除き特定業務従事者等は 6ヶ月以内に1回

(4) 特殊健康診断

1) 健診概要

目的： 特定の有害業務に従事する就業者を対象とした健康管理

対象： 有害業務従事者

2) 実施状況

7,071 人の健診を実施し、前年度に比べ 86 人 (1.23%) の増加であった。

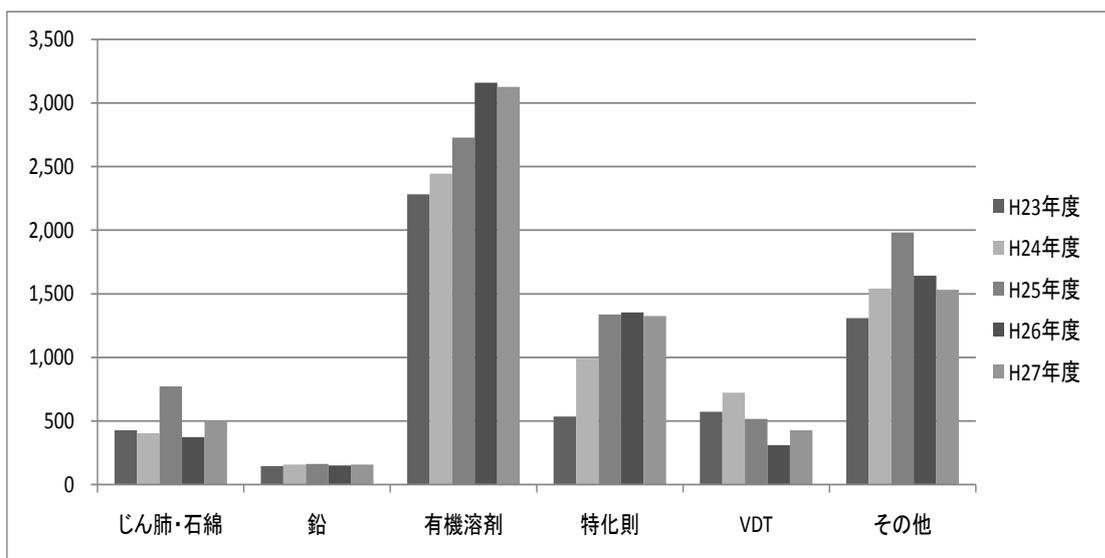
① 項目別実施状況

じん肺・石綿健診は 502 人、鉛健診は 158 人、有機溶剤健診は 3,126 人
 特定化学物質健診は 1,326 人、VDT 健診は 427 人、その他健診は 1,532 人であった。

② 項目別受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
じん肺・石綿	428	404	772	372	502
鉛	146	157	161	151	158
有機溶剤	2,283	2,444	2,729	3,159	3,126
特化則	536	990	1,336	1,353	1,326
VDT	572	723	515	309	427
その他	1,310	1,541	1,983	1,641	1,532
計	5,275	6,259	7,496	6,985	7,071



3) 健診方法

労働安全衛生法及びじん肺法で定める検査項目を基本としている。

(5) 胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）

1) 検診概要

目的：「結核」の早期発見、まん延防止及び「肺がん」の早期発見、死亡率低下
 対象：「結核」は65歳以上の住民、労働安全衛生法による定期健診対象者及び
 感染症法による対象者、「肺がん」は40歳以上の住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では66,656人の検診を実施し、前年度に比べ2,856人（4.11%）の減少であった。

職域では64,977人の検診を実施し、前年度に比べ8,518人（22.15%）の増加であった。

各種学校では23,006人の検診を実施し、前年度に比べ129人（0.86%）の減少であった。

全体では前年度に比べ5,463人（4.17%）の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	82,596	76,419	73,702	69,512	66,656
職域	41,220	44,175	43,066	38,459	46,977
各種学校	20,882	23,453	23,793	23,205	23,006
計	144,698	144,047	140,561	131,176	136,639

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率（各種学校の読影のみ除く）

要精検者数は1,687人で、要精検率は1.23%であった。

③ 精検受診率（各種学校除く）

精検受診者数は1,196人で、精検受診率は70.81%であった。

④ がん発見率（各種学校除く）

発見された人数は25人で、発見率は0.02%であった。

内訳は男性16人、女性9人であった。

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
がん発見者数	37	48	10	24	25
がん発見率	0.03 %	0.04 %	0.01 %	0.02 %	0.02 %

3) 検診方法

① 検診項目

結核検診 : 胸部X線間接撮影 (100mm)

肺がん検診 : 問診、胸部X線写真読影 (100mm)、喀痰細胞診 (問診で喫煙指数
600以上の者または6ヶ月以内に血痰のあった者、いずれかに
該当する者)

② 判定方法

胸部疾患専門医師2名による二重読影を行う。
肺がん検診では読影結果に基づき比較読影を実施する。

③ 判定区分

異常なし : 所見なし (有所見を含む)

経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検 : 病変の発見及びその疑いがある

別表1 胸部X線検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～19	0	0	0										
	20～24	0	0	0										
	25～29	0	0	0										
	30～34	0	0	0										
	35～39	2	0	0										
	40～44	408	2	1									1	
	45～49	433	6	5							2		2	1
	50～54	471	2	1									1	
	55～59	650	14	11									7	4
	60～64	1,689	38	29	1	3				1	2		14	8
	65～69	5,129	98	73	4	4				1	8		43	13
	70～74	5,558	106	83	4	5			1		6		48	19
	75～79	4,679	118	102	3	7			1		7		63	21
	80～	4,870	192	144	4	9			1	5	16		80	29
計	23,889	576	449	16	28	0	1	7	2	41	0	259	95	
女	～19	0	0	0										
	20～24	2	0	0										
	25～29	3	0	0										
	30～34	16	0	0										
	35～39	18	0	0										
	40～44	1,181	11	10							2		5	3
	45～49	1,313	5	4									4	
	50～54	1,720	13	11							1		4	6
	55～59	2,482	24	18						1			15	2
	60～64	4,820	60	47	1	2			1		1		26	16
	65～69	9,918	116	97	4	4		1	1		5		54	28
	70～74	8,758	125	107		3		1	4		5		69	25
	75～79	6,509	135	112	1	6					8		68	29
	80～	6,027	186	149	1	2			1		4		106	35
計	42,767	675	555	7	17	0	2	7	1	26		351	144	
合計	66,656	1,251	1,004	23	45	0	3	14	3	67	0	610	239	

別表2 胸部X線検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～19	236	0	0										
	20～24	1,978	3	0										
	25～29	4,168	6	3										1
	30～34	4,334	12	3							1			1
	35～39	2,890	8	2							1			1
	40～44	2,868	26	6							1			
	45～49	2,273	23	9							2			
	50～54	1,767	11	4										
	55～59	1,543	24	8							3			3
	60～64	1,393	33	12							3			3
	65～69	918	31	10						1	2		2	3
	70～74	286	10	6							3			
	75～79	142	7	3							1			
	80～	220	31	18		1					6	1	3	2
不明	720	20	20											
計	25,736	245	104	0	1	0	0	0	2	23	1	6	16	
女	～19	297	0	0										
	20～24	2,237	3	2										1
	25～29	3,427	3	1										1
	30～34	2,610	6	5							1			3
	35～39	2,562	12	7									1	3
	40～44	2,290	11	6							1			1
	45～49	2,108	13	5							3			
	50～54	1,699	12	9							1			3
	55～59	1,426	24	12	1						2		1	3
	60～64	975	23	13		1					4		1	2
	65～69	487	11	2							1		2	
	70～74	165	2	2							1			
	75～79	127	4	2							1		1	
	80～	810	66	21	1	1		1			6	2		2
不明	21	1	1											
計	21,241	191	88	2	2		1			21	2	6	19	
合計	46,977	436	192	2	3	0	1	0	2	44	3	12	35	

別表3 胸部X線検診年齢階層別実施状況（各種学校）

区分	受診者数	一次検査結果内訳			
		異常なし	経過観察	要精検	撮影のみ
高：1学年	8,895	8,871		24	
高：その他	330	328		2	
養護学校	239	237		2	
その他学校	13,542	12,266	6	25	1,245
計	23,006	21,702	6	53	1,245

別表4 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39	0		0			
	40～44	22		22			
	45～49	25		25			
	50～54	31		31			
	55～59	56		56			
	60～64	165	2	162	1		
	65～69	423	2	417	4		
	70～74	448	3	444	1		
	75～79	361	1	358	1		1
	80～	290	3	280	6	1	
	不明						
計	1,821	11	1,795	13	1	1	
女	～39	0		0			
	40～44	15		15			
	45～49	9		8	1		
	50～54	10		10			
	55～59	13		13			
	60～64	32		32			
	65～69	85		85			
	70～74	73	1	72			
	75～79	52	1	50	1		
	80～	39		39			
	不明						
計	328	2	324	2	0	0	
合計	2,149	13	2,119	15	1	1	

別表5 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39	36	1	35			
	40～44	26		26			
	45～49	25		25			
	50～54	25	1	24			
	55～59	30		30			
	60～64	19	1	18			
	65～69	4		4			
	70～74	4		4			
	75～79						
	80～						
	不明						
計	169	3	166	0	0	0	
女	～39	49	3	46			
	40～44	22		22			
	45～49	15		15			
	50～54	21		21			
	55～59	6		6			
	60～64	6	1	5			
	65～69						
	70～74	1					
	75～79			1			
	80～						
	不明						
計	120	4	116	0	0	0	
合計	289	7	282	0	0	0	

(6) 胃がん検診

1) 検診概要

目的： 胃がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 16,452 人の検診を実施し、前年度に比べ 904 人 (5.81%) の増加であった。

職域では 7,415 人の検診を実施し、前年度に比べ 365 人 (5.18%) の増加であった。

全体では前年度に比べ 1,269 人 (5.62%) の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	18,712	17,488	16,604	15,548	16,452
職域	6,547	6,593	6,967	7,050	7,415
計	25,259	24,081	23,571	22,598	23,867

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 1,989 人で、要精検率は 8.33% であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は 1,572 人で、精検受診率は 79.03% であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 33 人で、発見率は 0.14% であった。

内訳は男性 23 人、女性 10 人であった。

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
がん発見者数	26	28	28	14	30
がん発見率	0.10 %	0.12 %	0.12 %	0.06 %	0.13 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診、胃部X線検査（日本消化器集団検診学会間接8枚撮影法）

② 判定方法

専門医師による二重読影（ダブルチェック）

③ 判定区分

異常なし： 所見なし（放置可を含む）

経過観察： 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検： 疑わしい所見がみられるため精密検査の必要がある

別表1 胃がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳															
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明				
男	～39																			
	40～44	212	16	9									7			1		1		
	45～49	183	13	9					1	2			6							
	50～54	201	14	7	1					2		1	3							
	55～59	285	24	18	1	1				3	2	9	9							1
	60～64	673	85	68	3	1				3	3	9	40	1						8
	65～69	1,725	196	163	5	8				3	20	16	101			1				9
	70～74	1,550	151	117	10	4				3	13	5	70			1				11
	75～79	1,094	121	96	6	4	2			3	14	7	52			1				7
	80～	1,106	112	91	3	2		1		5	13	9	54							4
	計	7,029	732	578	29	20	2	1		19	70	49	342	1		4				41
女	～39	1																		
	40～44	457	20	18						4			13							1
	45～49	422	19	16						5	1	8			1				1	
	50～54	470	24	22	1					4		15							2	
	55～59	692	43	31	5					5		20							1	
	60～64	1,279	103	87	6	1				1	16	5	50						8	
	65～69	2,256	175	152	7					3	23	7	98	1		1			12	
	70～74	1,696	145	126	11	6				7	18	11	65			2			6	
	75～79	1,250	107	94	10	1				2	16	4	51						10	
	80～	900	67	61	4	2				2	12	1	35						5	
	計	9,423	703	607	44	10	0	0		15	103	29	355	1		4			46	0
合計	16,452	1,435	1,185	73	30	2	1		34	173	78	697	2		8			87	0	

別表2 胃がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳															
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明				
男	～39	932	56	41	3						2	3	25			1			7	
	40～44	1,109	74	47	7					1	6	6	22	1		1			3	
	45～49	896	66	46	5					2	4	3	27			2			3	
	50～54	761	68	44	5					3	2	4	21	1		2			6	
	55～59	649	65	43	5	1					3	4	27						3	
	60～64	489	73	54	4						4	6	35			1			4	
	65～69	231	28	19		1					3	2	9						4	
	70～74	45	6	3							1		1							
	75～79	9	1	1			1													
	80～	3																		
	不明	5	1																	
計	5,129	438	298	29	3	0	0		6	25	29	167	2		7			30	0	
女	～39	381	10	8	2								5						1	
	40～44	452	22	14						1	3	8			1			1		
	45～49	475	21	16	3						1		9					3		
	50～54	344	17	16	1					1	2		10					2		
	55～59	328	19	15							2	1	10					2		
	60～64	219	19	15	2						1		11					1		
	65～69	68	6	3									3							
	70～74	18	2	2									2							
	75～79	1																		
	80～																			
	不明																			
計	2,286	116	89	8	0	0	0		2	9	1	58	0		1		10	0		
合計	7,415	554	387	37	3	0	0		8	34	30	225	2		8		40	0		

別表3 胃がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳														
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明			
男	～39	932	56	41	3	0	0	0	0	2	3	25	0		1			7	0
	40～44	1,321	90	56	7	0	0	0	1	6	6	29	1		2			4	0
	45～49	1,079	79	55	5	0	0	0	3	6	3	33	0		2			3	0
	50～54	962	82	51	6	0	0	0	3	4	5	24	1		2			6	0
	55～59	934	89	61	6	2	0	0	1	6	6	36	0		0			4	0
	60～64	1,162	158	122	7	1	0	0	3	7	15	75	1		1			12	0
	65～69	1,956	224	182	5	9	0	0	3	23	18	110	0		1			13	0
	70～74	1,595	157	120	10	4	0	0	3	14	6	71	0		1			11	0
	75～79	1,103	122	97	6	5	2	0	3	14	7	52	0		1			7	0
	80～	1,109	112	91	3	2	0	1	5	13	9	54	0		0			4	0
	不明	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
計	12,158	1,170	876	58	23	2	1	25	95	78	509	3		11			71	0	
女	～39	382	10	8	2	0	0	0	0	0	0	5		0				1	0
	40～44	909	42	32	0	0	0	0	1	7	0	21	0		1			2	0
	45～49	897	40	32	3	0	0	0	0	6	1	17	0		1			4	0
	50～54	814	41	38	2	0	0	0	1	6	0	25	0		0			4	0
	55～59	1,020	62	46	5	0	0	0	0	7	1	30	0		0			3	0
	60～64	1,498	122	102	8	1	0	0	1	17	5	61	0		0			9	0
	65～69	2,324	181	155	7	0	0	0	3	23	7	101	1		1			12	0
	70～74	1,714	147	128	11	6	0	0	7	18	11	67	0		2			6	0
	75～79	1,251	107	94	10	1	0	0	2	16	4	51	0		0			10	0
	80～	900	67	61	4	2	0	0	2	12	1	35	0		0			5	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
計	11,709	819	696	52	10	0	0	17	112	30	413	1		5			56	0	
合計	23,867	1,989	1,572	110	33	2	1	42	207	108	922	4		16			127	0	

(7) 子宮がん検診

1) 検診概要

目的：子宮頸がんの早期発見

対象：原則として20歳以上の女性で地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では24,951人の検診を実施し、前年度に比べ293人(1.19%)の増加であった。

職域では1,385人の検診を実施し、前年度に比べ106人(8.29%)の増加であった。

全体では前年度に比べ399人(1.54%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	32,790	30,524	26,465	24,658	24,951
職域	516	691	1,342	1,279	1,385
計	33,306	31,215	27,807	25,937	26,336

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は146人で、要精検率は0.55%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は94人で、精検受診率は64.38%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は3人で、発見率は0.01%であった。

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
がん発見者数	7	6	12	5	3
がん発見率	0.02 %	0.02 %	0.04 %	0.02 %	0.01 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診（既往歴、家族歴等）、医師による視診・内診及び子宮頸部の細胞採取

② 判定方法

細胞診の判定は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士がスクリーニングして、ASC-US 以上のものについて細胞診専門医が判定を行う。

③ 判定区分

細胞診判定	結果	推定される 病理診断	従来クラス分類
NILM	陰性	非腫瘍性所見 炎症	I、II
ASC-US	意義不明な 異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II - IIIa
ASC-H	HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	IIIa、IIIb
LSIL	軽度扁平 上皮内病変	HPV感染 軽度異形成	IIIa
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成	IIIa
		高度異形成	IIIb
		上皮内癌	IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V
AGC	異型腺細胞	腺異型または 腺癌疑い	III
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌	IV
Adenoca.	腺癌	腺癌	V
other malig.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	V

別表1 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	225	7	1				1
25～29	438	15	8	2			6
30～34	1,028	20	11	2	1		8
35～39	1,547	21	14	7			7
40～44	1,989	16	13	2			11
45～49	1,531	17	12	2	2		8
50～54	1,462	9	5	1			5
55～59	1,872	8	6	1			5
60～64	2,930	4	3	2			1
65～69	4,860	6	6	3			3
70～74	3,490	6	4				4
75～79	2,364	2	2	2			
80～	1,215	3	1	1			
計	24,951	134	86	25	3	0	59

別表2 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	36						
25～29	135	2	1				1
30～34	152	3	2				2
35～39	165	1					
40～44	249						
45～49	221	2	2				2
50～54	212	3	2	2			1
55～59	122	1	1				
60～64	68						
65～69	18						
70～74	4						
75～79	3						
80～							
計	1,385	12	8	2	0	0	6

別表3 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	0	0	0	0	0	0	0
20～24	261	7	1	0	0	0	1
25～29	573	17	9	2	0	0	7
30～34	1,180	23	13	2	1	0	10
35～39	1,712	22	14	7	0	0	7
40～44	2,238	16	13	2	0	0	11
45～49	1,752	19	14	2	2	0	10
50～54	1,674	12	7	3	0	0	6
55～59	1,994	9	7	1	0	0	5
60～64	2,998	4	3	2	0	0	1
65～69	4,878	6	6	3	0	0	3
70～74	3,494	6	4	0	0	0	4
75～79	2,367	2	2	2	0	0	0
80～	1,215	3	1	1	0	0	0
計	26,336	146	94	27	3	0	65

(8) 乳がん検診

1) 検診概要

目的：乳がんの早期発見

対象：岡山県の指針で30歳代は視触診単独検診を毎年実施、40歳以上はマンモグラフィ併用検診を毎年実施

原則、地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では18,407人の検診を実施し、前年度に比べ1,229人(7.15%)の増加であった。

職域では1,174人の検診を実施し、前年度に比べ82人(7.51%)の増加であった。

全体では前年度に比べ1,311人(7.18%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	16,617	16,130	16,367	17,178	18,407
職域	1,028	970	999	1,092	1,174
計	17,645	17,100	17,366	18,270	19,581

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は907人で、要精検率は4.63%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は719人で、精検受診率は79.27%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は34人で、発見率は0.17%であった。

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
がん発見者数	25	13	24	24	34
がん発見率	0.14 %	0.08 %	0.14 %	0.13 %	0.17 %

3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診、視触診（専門医師による立位・座位・仰臥位・視触診法により行う）
- ・問診、視触診、マンモグラフィ（40歳代のみ、内外斜位一方向と頭尾方向を加えた2方向）

② 判定方法

視触診 : 専門医師による

マンモグラフィ : マンモグラフィ精度管理中央委員会の認定読影医師による二重読影

③ 判定区分

・視触診

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者

経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検 : 今回の検診で精密検査の必要があると診断された者

・マンモ併用

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者（有所見を含む）

要精検 : 疑わしい所見が見られるので精密検査が必要と診断された者

別表1 乳がん年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	89	1								
30～34	266	6	1	1	0		0	0	0	0
35～39	434	10	0	0	0		0	0	0	0
40～44	1,679	143	103	34	0		29	13	26	1
45～49	1,379	102	64	23	2		20	6	13	0
50～54	1,362	66	48	21	1		11	5	9	1
55～59	1,647	62	48	16	0		15	5	12	0
60～64	2,434	110	78	42	3		12	6	15	0
65～69	3,899	143	110	43	9		23	7	24	4
70～74	2,624	110	82	42	2		15	1	20	2
75～79	1,728	66	45	25	3		6	2	9	0
80～	866	25	20	14	2		1	0	2	1
不明			69	27	10		12	6	14	0
計	18,407	844	668	288	32	0	144	51	144	9

別表2 乳がん年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	24	1	1				1			
30～34	20	0	0							
35～39	87	3	2	2						
40～44	257	16	12	3			5	2	2	
45～49	241	22	20	8	1		3	4	4	
50～54	218	13	10	6	1		1	1	1	
55～59	128	0	0	0						
60～64	83	3	2	2			1			
65～69	68	3	2	2						
70～74	35	1	1	0					1	
75～79	6	0	0	0						
80～	7	1	1	1						
不明	0	0								
計	1,174	63	51	24	2	0	11	7	8	0

別表3 乳がん年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	113	2	1	0	0	0	1	0	0	0
30～34	286	6	1	1	0	0	0	0	0	0
35～39	521	13	2	2	0	0	0	0	0	0
40～44	1,936	159	115	37	0	0	34	15	28	1
45～49	1,620	124	84	31	3	0	23	10	17	0
50～54	1,580	79	58	27	2	0	12	6	10	1
55～59	1,775	62	48	16	0	0	15	5	12	0
60～64	2,517	113	80	44	3	0	13	6	15	0
65～69	3,967	146	112	45	9	0	23	7	24	4
70～74	2,659	111	83	42	2	0	15	1	21	2
75～79	1,734	66	45	25	3	0	6	2	9	0
80～	873	26	21	15	2	0	1	0	2	1
不明	0	0	69	27	10	0	12	6	14	0
計	19,581	907	719	312	34	0	155	58	152	9

(9) 大腸がん検診

1) 検診概要

目的：大腸がんの早期発見

対象：原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では22,604人の検診を実施し、前年度に比べ2,345人(11.58%)の増加であった。

職域では7,197人の検診を実施し、前年度に比べ837人(13.16%)の増加であった。

全体では前年度に比べ3,182人(11.95%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	20,023	20,310	19,946	20,259	22,604
職域	4,968	6,638	6,501	6,360	7,197
計	24,991	26,948	26,447	26,619	29,801

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は2,196人で、要精検率は7.36%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は1,615人で、精検受診率は73.54%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は39人で、0.13%であった。

内訳は男性17人、女性22人であった。

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
がん発見者数	36	33	25	25	39
がん発見率	0.14 %	0.12 %	0.09 %	0.09 %	0.13 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診、検査（免疫学的便ヘモグロビン検査、便採取は2日法）

② 判定区分

異常なし：免疫学的便潜血反応検査において2日とも陰性

要精検：免疫学的便潜血反応検査において1日あるいは2日とも陽性

別表1 大腸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～44	295	14	9	4	0	0	0	4	0	1	0	0
	45～49	271	8	7	0	0	0	0	4	0	3	0	0
	50～54	297	22	13	1	0	0	0	9	1	2	0	0
	55～59	399	33	27	2	0	0	0	18	4	3	0	0
	60～64	908	74	56	8	0	0	0	36	5	7	0	0
	65～69	1,935	157	120	15	6	1	0	64	15	15	4	0
	70～74	1,778	138	108	14	4	0	0	63	7	15	5	0
	75～79	1,365	171	129	22	3	1	0	63	22	11	7	0
	80～	1,418	185	133	29	3	0	0	70	12	17	2	0
計	8,668	802	602	95	16	2	0	331	66	74	18	0	
女	～39	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	40～44	786	60	42	19	0	0	0	8	3	7	5	0
	45～49	692	44	31	17	0	0	0	7	0	3	4	0
	50～54	763	40	31	14	0	0	0	7	4	4	2	0
	55～59	1,138	77	59	22	2	0	0	20	7	7	1	0
	60～64	1,797	100	82	22	6	1	0	23	15	14	1	0
	65～69	3,040	172	140	38	4	1	0	60	14	20	3	0
	70～74	2,336	179	150	41	1	1	0	56	18	29	4	0
	75～79	1,760	157	129	30	4	0	0	56	18	19	2	0
	80～	1,623	163	112	23	5	0	0	44	17	19	4	0
計	13,936	993	777	226	22	3	0	281	96	122	27	0	
合計		22,604	1,795	1,379	321	38	5	0	612	162	196	45	0

別表2 大腸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	813	39	29	8	0	0	0	8	3	5	4	0
	40～44	932	56	36	10	0	0	0	17	2	7	0	0
	45～49	804	32	17	3	1	0	0	10	2	1	0	0
	50～54	642	34	15	2	0	0	0	6	1	2	4	0
	55～59	509	36	24	5	0	0	0	13	3	3	0	0
	60～64	406	33	21	3	0	0	0	14	1	2	1	0
	65～69	223	18	9	0	0	0	0	8	0	1	0	0
	70～74	65	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	75～79	38	3	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	80～	6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	4,438	255	154	31	1	0	1	77	12	22	9	1	
女	～39	566	34	20	10	0	0	0	5	1	3	1	0
	40～44	535	27	10	3	0	0	0	2	1	2	2	0
	45～49	469	24	15	3	0	0	0	5	1	5	1	0
	50～54	355	12	5	0	0	0	0	3	0	1	1	0
	55～59	326	19	14	4	0	0	0	4	2	3	0	0
	60～64	273	12	7	3	0	0	0	2	2	0	0	0
	65～69	129	7	4	2	0	0	0	2	0	0	0	0
	70～74	61	5	4	0	0	0	0	2	0	2	0	0
	75～79	28	4	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0
	80～	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	2,754	146	82	26	0	0	0	26	8	16	5	0	
合計		7,192	401	236	57	1	0	1	103	20	38	14	1

別表3 大腸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	815	39	29	8	0	0	0	8	3	5	4	0
	40～44	1,227	70	45	14	0	0	0	21	2	8	0	0
	45～49	1,075	40	24	3	1	0	0	14	2	4	0	0
	50～54	939	56	28	3	0	0	0	15	2	4	4	0
	55～59	908	69	51	7	0	0	0	31	7	6	0	0
	60～64	1,314	107	77	11	0	0	0	50	6	9	1	0
	65～69	2,158	175	129	15	6	1	0	72	15	16	4	0
	70～74	1,843	140	108	14	4	0	0	63	7	15	5	0
	75～79	1,403	174	131	22	3	1	0	64	22	12	7	0
	80～	1,424	187	134	29	3	0	0	70	12	17	2	1
不明	8,673	802	602	95	16	2	0	331	66	74	18	0	
計	13,106	1,057	756	126	17	2	1	408	78	96	27	1	
女	～39	567	35	21	10	0	0	0	5	1	3	2	0
	40～44	1,321	87	52	22	0	0	0	10	4	9	7	0
	45～49	1,161	68	46	20	0	0	0	12	1	8	5	0
	50～54	1,118	52	36	14	0	0	0	10	4	5	3	0
	55～59	1,464	96	73	26	2	0	0	24	9	10	1	0
	60～64	2,070	112	89	25	6	1	0	25	17	14	1	0
	65～69	3,169	179	144	40	4	1	0	62	14	20	3	0
	70～74	2,397	184	154	41	1	1	0	58	18	31	4	0
	75～79	1,788	161	132	31	4	0	0	57	19	19	2	0
	80～	1,635	165	112	23	5	0	0	44	17	19	4	0
不明	13,936	993	777	226	22	3	0	281	96	122	27	0	
計	16,690	1,139	859	252	22	3	0	307	104	138	32	0	
合計		29,796	2,196	1,615	378	39	5	1	715	182	234	59	1

(10) 前立腺がん検診

1) 検診概要

目的： 前立腺がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 6,516 人の検診を実施し、前年度に比べ 313 人 (5.03%) の減少であった。

職域では 514 人の検診を実施し、前年度に比べ 144 人 (38.92%) の増加であった。全体では前年度に比べ 457 人 (6.95%) の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
地域	6,175	6,224	6,213	6,203	6,516
職域	250	278	311	370	514
計	6,425	6,502	6,524	6,573	7,030

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 459 人で、要精検率は 6.53% であった。

④ 検受診率

精検受診者数は 314 人で、精検受診率は 68.41% であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 40 人で、発見率は 0.57% であった。

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
がん発見者数	39	23	21	26	40
がん発見率	0.61 %	0.35 %	0.32 %	0.40 %	0.57 %

3) 検診方法

① 検診項目： 問診、前立腺特異抗原検査 (CLEIA 法)

② 判定区分： PSA の基準値を 4.0ng/ml とし、4.0 以下を異常なし、4.1 以上を要精検と判定

別表1 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明	
～39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54	202	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0
55～59	284	4	4	0	0	0	0	3	1	0	0	0
60～64	729	34	18	5	4	1	0	7	0	0	0	1
65～69	1,805	108	76	15	14	9	0	32	2	0	0	4
70～74	1,537	110	80	12	6	6	0	43	4	0	0	9
75～79	961	90	56	9	7	6	0	25	1	0	0	8
80～	833	97	70	6	7	12	0	40	1	1	1	3
計	6,516	446	307	49	39	34	0	150	9	1	1	25

別表2 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明	
～39	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	68	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
50～54	125	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59	109	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
60～64	66	5	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0
65～69	38	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
70～74	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	514	13	7	2	1	0	0	2	1	0	0	1

別表3 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明	
～39	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	143	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
50～54	327	6	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0
55～59	393	5	5	0	0	0	0	4	1	0	0	0
60～64	795	39	20	5	5	1	0	8	0	0	0	1
65～69	1,843	111	77	15	14	9	0	32	2	0	0	5
70～74	1,541	110	80	12	6	6	0	43	4	0	0	9
75～79	961	90	56	9	7	6	0	25	1	0	0	8
80～	833	97	70	6	7	12	0	40	1	1	1	3
計	7,030	459	314	51	40	34	0	152	10	1	1	26

(1 1) 骨粗鬆症検診

1) 検診概要

目的：骨粗鬆症の予防

対象：地域住民、事業所就業者、学生

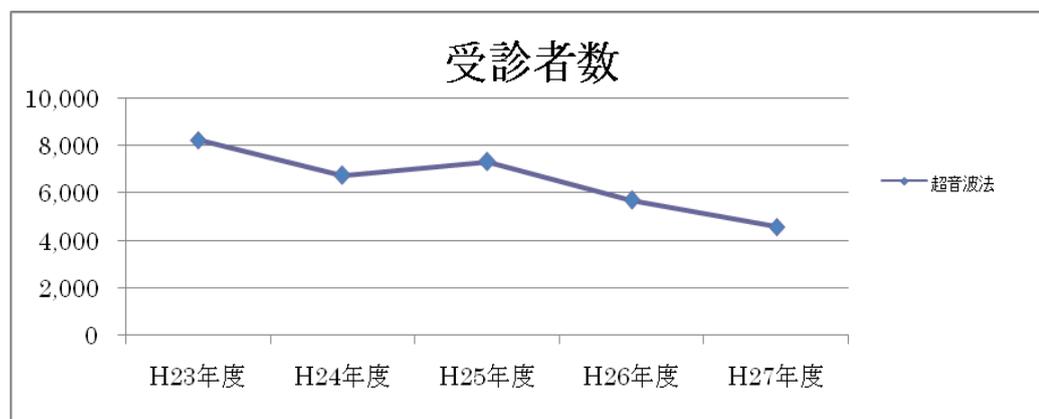
2) 実施状況

4,567人の検診を実施し、前年度に比べ1,124人（19.75%）の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
超音波法	8,239	6,746	7,328	5,691	4,567



3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診
- ・超音波法：足のかかると超音波をあてて、音響的骨評価値により骨密度を測定

② 判定方法

性別、年齢別に下記判定基準値（YAM値）と照合し医師による最終判定を行う

4) 判定基準値（成人）

性別	年齢	YAM値に対する割合		
		① 異常なし	② 要指導	③ 要精検
女性	59歳以下	90%以上	90%未満 80%以上	80%未満
	60歳以上	90%以上	90%未満 70%以上	70%未満
男性	全年齢	90%以上	90%未満 75%以上	75%未満

(1 2) 学校保健検査

1. 尿検査

1) 検査概要

目的： 腎臓病・糖尿病等早期発見

対象： 学校保健安全法に基づく幼児・児童・生徒等

2) 実施状況

158,571人の検査を実施し、前年度に比べ4,511人(2.77%)の減少であった。

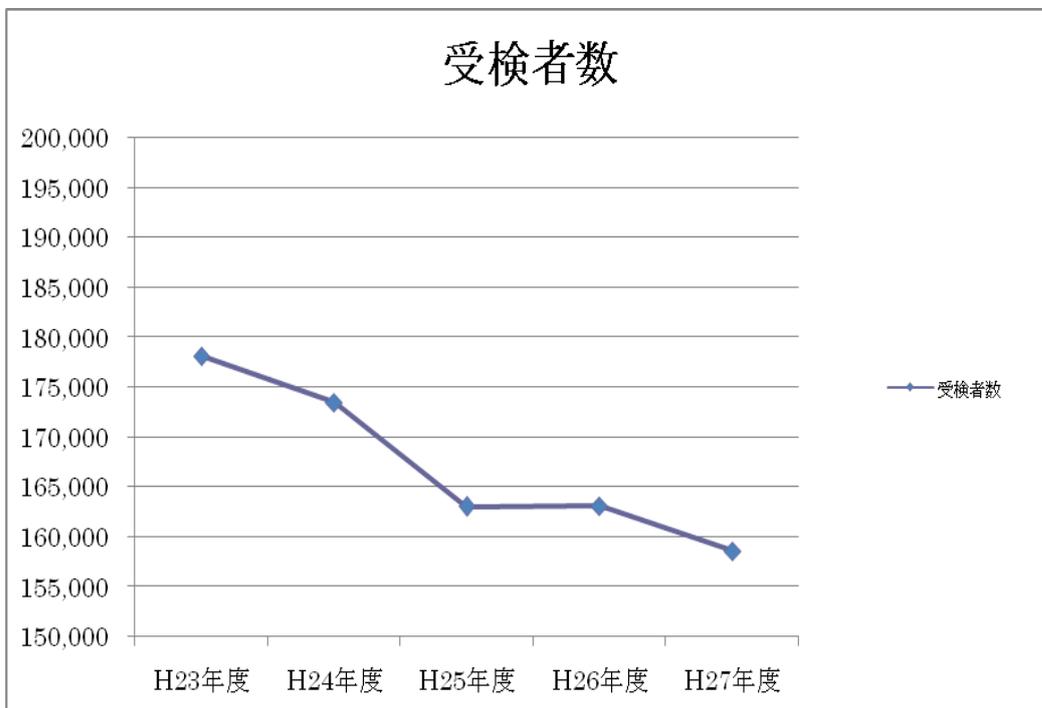
第1回検尿の陽性者は9,541人で、陽性率は6.02%であった。

第2回検尿の陽性者は1,740人で、陽性率は21.39%であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
受検者数	178,147	173,465	163,021	163,082	158,571



② 検査実績

対象	性別	第1回検尿						第2回検尿					
		受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数			受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数		
					糖	蛋白	潜血				糖	蛋白	潜血
幼稚園 保育園	男	8,287	113	1.36	2	96	17	84	12	14.29	0	11	5
	女	7,930	194	2.45	6	161	32	143	19	13.29	0	12	10
	計	16,217	307	1.89	8	257	49	227	31	13.66	0	23	15
小学校	男	39,785	944	2.37	26	796	142	879	166	18.89	4	129	58
	女	37,342	1,966	5.26	25	1,619	415	1,799	357	19.84	5	301	101
	計	77,127	2,910	3.77	51	2,415	557	2,678	523	19.53	9	430	159
中学校	男	20,278	2,084	10.28	25	1,988	107	1,903	432	22.70	1	404	61
	女	19,220	2,220	11.55	28	1,617	753	1,956	415	21.22	4	353	125
	計	39,498	4,304	10.90	53	3,605	860	3,859	847	21.95	5	757	186
高等学校	男	9,734	766	7.87	27	704	51	602	142	23.59	2	132	19
	女	9,627	828	8.60	16	625	236	647	165	25.50	2	153	35
	計	19,361	1,594	8.23	43	1,329	287	1,249	307	24.58	4	285	54
その他の 学校	男	1,407	88	6.25	7	80	2	17	1	5.88	0	1	0
	女	3,175	154	4.85	7	124	30	46	13	28.26	2	11	0
	計	4,582	242	5.28	14	204	32	63	14	22.22	2	12	0
特殊学校	男	1,173	111	9.46	7	98	10	34	11	32.35	0	10	3
	女	613	73	11.91	6	59	17	23	7	30.43	1	7	2
	計	1,786	184	10.30	13	157	27	57	18	31.58	1	17	5
合計	男	80,664	4,106	5.09	94	3,762	329	3,519	764	21.71	7	687	146
	女	77,907	5,435	6.98	88	4,205	1,483	4,614	976	21.15	14	837	273
	計	158,571	9,541	6.02	182	7,967	1,812	8,133	1,740	21.39	21	1,524	419

3) 検査方法

第1回検尿：蛋白、潜血、糖を、尿自動分析装置（US3300）を用いて定性検査を実施する。

蛋白（±）以上の尿に対しては、スルホサリチル酸法で確認する。

第2回検尿：第1回検尿の陽性者に対し第1回検尿と同様の検査項目・検査方法を行う。

蛋白・潜血陽性者に対しては沈渣鏡検を行う。

2. 寄生虫検査

1) 検査概要

目的： 学校保健安全法に基づく寄生虫の保卵者の発見

対象： 幼児、児童、生徒等

2) 実施状況

糞便検査は3,311人の検査を実施し、前年度に比べ57人（1.69%）の減少であった。

蟯虫検査は50,162人の検査を実施し、前年度に比べ5,728人（10.25%）の減少であった。

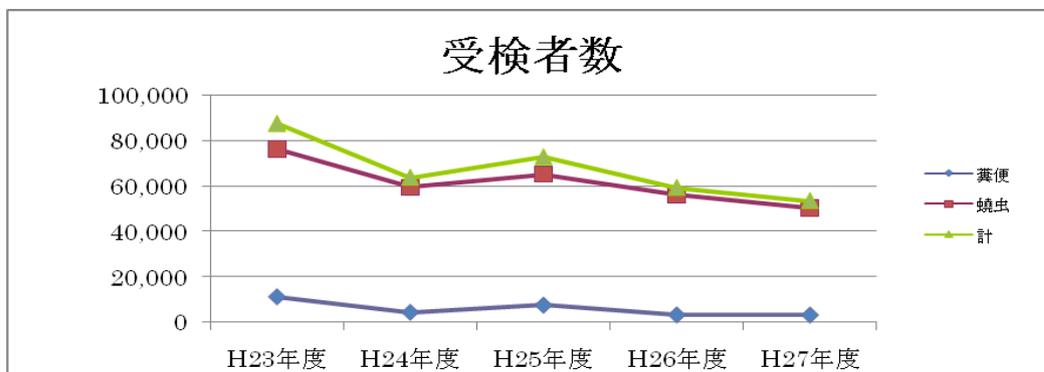
糞便検査の保卵者は0人で、陽性率は0.00%であった。

蟯虫検査の保卵者は14人で、陽性率は0.03%であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
糞便	11,359	4,511	7,653	3,368	3,311
蟯虫	76,236	59,286	65,165	55,890	50,162
計	87,595	63,797	72,818	59,258	53,473



② 検査実績

区分	糞便			蟯虫		
	検査者数	保卵者数	陽性率(%)	検査者数	保卵者数	陽性率(%)
保育園 幼児クラブ	825	0	0.00	5,457	0	0.00
幼稚園	707	0	0.00	10,655	0	0.00
小学校	1,336	0	0.00	33,758	14	0.04
特殊学校	443	0	0.00	292	0	0.00
計	3,311	0	0.00	50,162	14	0.03

3) 検査方法

- ・セロファンテープ肛囲検査法（2回法）： 蟯虫卵検査方法はセロテープ法を用いた採卵を行う。
夜間に肛門周囲に産卵された蟯虫卵を早朝セロテープの粘着部に付着させ、これを2日間（2回）行い、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。
- ・セロファン厚層塗抹法： 便をマッチの頭程度スライドに乗せ、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。

3. 貧血検査

1) 検査概要

目的： 貧血をはじめとする血液学的疾病の早期発見

対象： 児童、生徒等

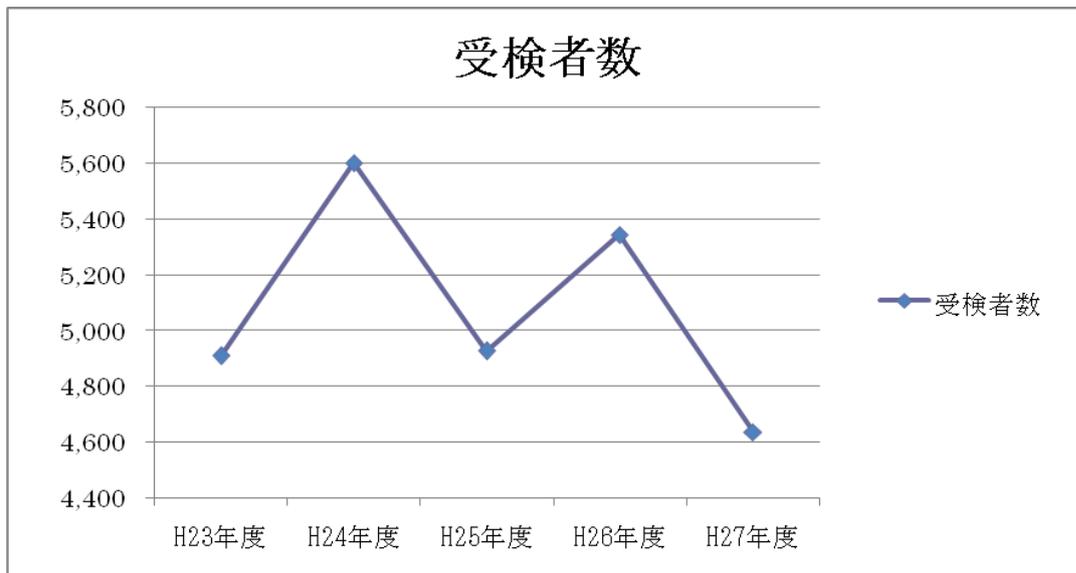
2) 実施状況

4,638人の検査を実施し、前年度に比べ706人（13.21%）の減少であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
受検者数	4,909	5,601	4,927	5,344	4,638



② 検査実績

区分	性別	RBC (赤血球数)		Hb (ヘモグロビン)		Ht (ヘマトクリット)	
		受診数	基準外	受診数	基準外	受診数	基準外
中学校	男	8	0	8	1	8	1
	女	103	13	103	7	103	10
高校	男	1,722	548	1,722	107	1,722	79
	女	2,805	506	2,805	230	2,805	205
計		4,638	1,067	4,638	345	4,638	295

3) 検査方法

静脈より採血し、全自動血球計数装置 (XE2100) でRBC (赤血球数)、Hb (ヘモグロビン)、Ht (ヘマトクリット) の値を測定する。

4. 心臓検診

1) 検診概要

目的：心疾患児の発見とともに重症度を判定し、突然死等の発生の予防

対象：学校保健安全法に基づく、小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生、高等学校1年生及びその他の学年

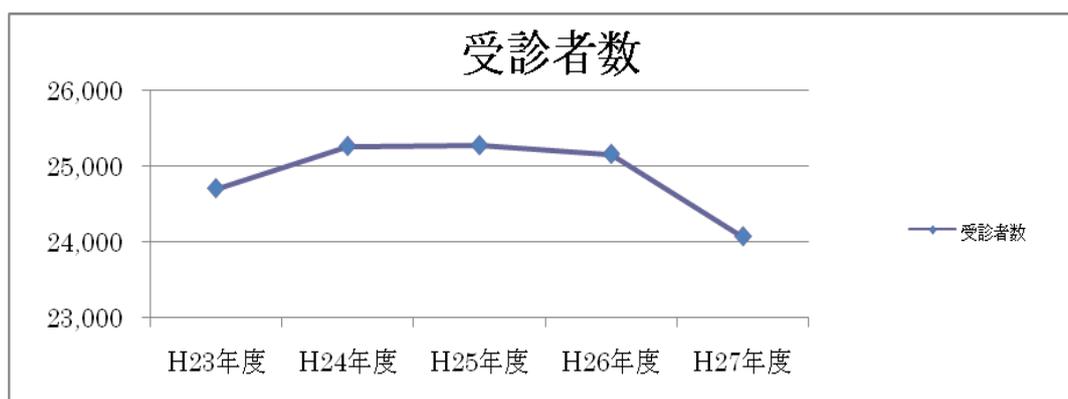
2) 実施状況

24,062人の検診を実施し、前年度に比べ1,094人(4.35%)の減少であった。
 有所見率は2.54%であった(医師会審査判読分は除く)。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
受診者数	24,701	25,261	25,272	25,156	24,062



② 検診実績

区分	受診者数	判定		
		正常	有所見	有所見率
小学校	5,740	5,614	126	2.20
中学校	5,963	5,814	149	2.50
高校、大学	7,687	7,496	191	2.48
特殊学校	378	341	37	9.79
計	19,768	19,265	503	2.54

※ 医師会審査判読分(4,281人)を除く

3) 検診方法

心臓検診票と省略4誘導心電図+2点心音図を実施。一部の学校では標準12誘導心電図を実施。

県医師会解析センターで自動解析(一次判読)後、一次有所見者と検診票
 有点者をふるい分けし、市医師会心臓判定委員会、財団専門医師等で二次判読
 を実施し最終判定を行う。

5. 小児生活習慣病予防健診

1) 健診概要

目的：生活習慣病及び生活習慣病予備軍の発見

対象：小学校4年生と中学校1年生の生徒（1市のみ実施）

2) 実施状況：

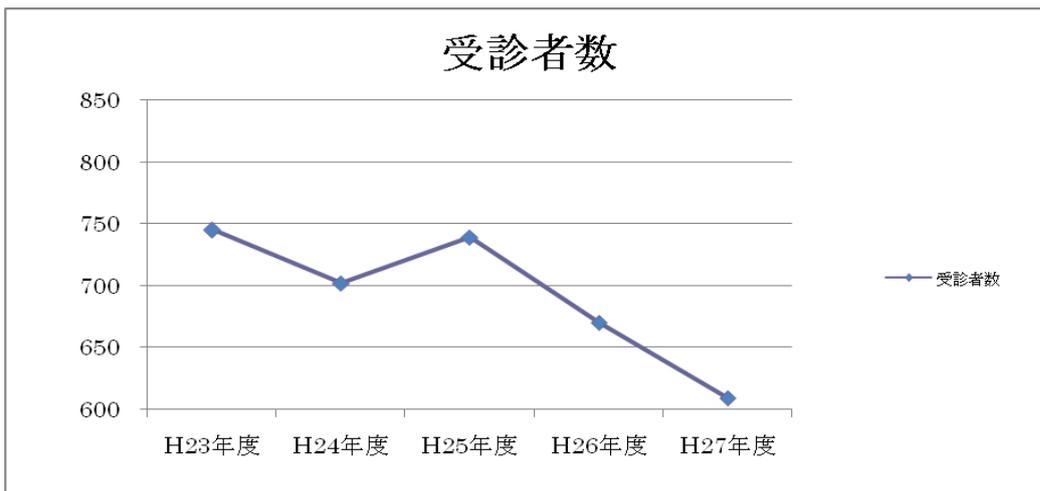
609人の健診を実施し、前年度に比べ61人（9.10%）の減少であった。

また、判定結果で何らかの管理を要する生徒は145人（23.81%）であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
受診者数	745	702	739	670	609



② 健診実績

区分	受診者数	管理区分										
		要医学的管理 (I)		要経過観察 (II)		要指導 (III)		管理不要 (IV)		正常 (N)		
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
小学校 4年生	男	163	4	2.5	13	8.0	38	23.3	71	43.6	37	22.7
	女	135	1	0.7	7	5.2	28	20.7	71	52.6	28	20.7
	計	298	5	1.7	20	6.7	66	22.1	142	47.7	65	21.8
中学校 1年生	男	165	0	0.0	5	3.0	19	11.5	99	60.0	42	25.5
	女	146	2	1.4	6	4.1	22	15.1	83	56.8	33	22.6
	計	311	2	0.6	11	3.5	41	13.2	182	58.5	75	24.1
合計	男	328	4	1.2	18	5.5	57	17.4	170	51.8	79	24.1
	女	281	3	1.1	13	4.6	50	17.8	154	54.8	61	21.7
	計	609	7	1.1	31	5.1	107	17.6	324	53.2	140	23.0

3) 健診方法

① 健診項目

小児生活習慣病予防健診調査票（家族歴、糖尿病の有無）、身体計測（肥満度の計算）、血中脂質検査、血圧測定

② 判定区分

健診各項目を小児生活習慣病基準値からの乖離度合で判定し、同時にその判定の組合せで5段階の総合判定を行う。

総合判定には専門医師が関与するとともに総合判定のランクに対応して指導（管理）区分を決定する。

管理区分	内容
I	要医学的管理
II	要経過観察
III	要指導
IV	管理不要
N	正常

(13) 先天性代謝異常等検査

1) 検査概要

目的：先天性代謝異常症等の早期発見

対象：新生児（原則として保護者の検査希望）

2) 実施状況

平成11年度より岡山県からの委託事業として実施しているが、平成18年度より高知県、平成20年度より鳥取県から委託を受け、平成21年度より政令指定都市への移行に伴い、岡山市から委託を受けている。

また平成24年度からタンデムマス検査が導入され対象疾患は従来の6疾患から19疾患に拡大し、一時的ではあるが埼玉県、愛媛県からの委託を受けた。

平成25年度からは島根県より3項目の委託を受けた。

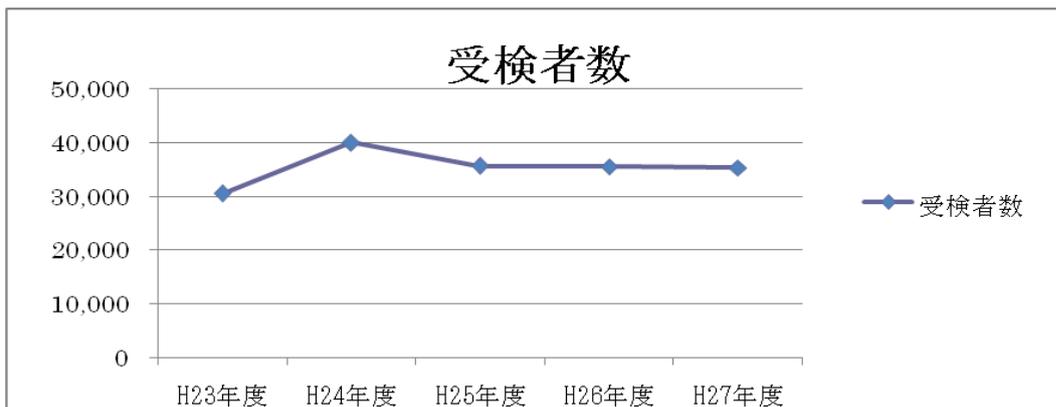
35,357人（初回検体数:33,442人、再採血による再検査数:1,915人）の検査を実施し、前年度に比べ186人（0.52%）の減少であった。

内訳は要再検査1,915人（5.73%）、要精検204人（0.61%）、確定患児36人（0.11%）であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
受検者数	30,538	40,000	35,659	35,543	35,357



② 検査実績

対象疾患	初回検体数	要再検査	要精検	患児件数
先天性甲状腺機能低下症	33,442	473 (1.41%)	73 (0.22%)	30 (0.09%)
先天性副腎過形成症		512 (1.53%)	103 (0.31%)	4 (0.01%)
ガラクトース血症		64 (0.19%)	8 (0.02%)	0 (0.00%)
アミノ酸代謝異常症	27,212	14 (0.04%)	9 (0.03%)	0 (0.00%)
有機酸代謝異常症	21,655	46 (0.14%)	6 (0.02%)	1 (0.00%)
脂肪酸代謝異常症		44 (0.13%)	5 (0.01%)	1 (0.00%)
低出生体重児と検体不備の2回採血		762 (2.28%)		

3) 検査方法

出生から4～6日目に、新生児の踵から4スポットの血液をろ紙に採血する。
よく乾燥されたものを検体とする。

ガラクトース血症はマイクロプレート酵素法及びボイトラー法で検査。

先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症はELISA法で検査。

アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症はタンデムマス法で検査する。

2 環 境 部

(1) 飲料水検査

1) 検査概要

目的・・・水道事業、食品製造、飲用井戸、建築物等における安全な飲み水の確認
 対象・・・自治体、事業所、建築物管理者、貯水槽清掃業者及び個人

2) 実施状況

10,250 件検査を受託し、前年度と比較し978 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
11,703	10,745	11,163	11,236	11,239	11,307	11,228	10,250

② 平成 27 年度の検査実績

(件)

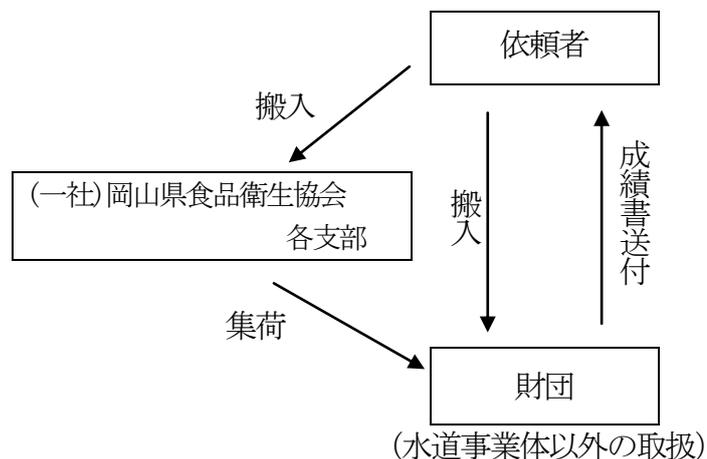
業務分類	検査種別	件数
水道事業	基準項目	579
	省略不可項目	640
	簡易項目	2,360
	水質管理目標設定項目	104
	農薬類	646
	クリプトスポリジウム	528
	クリプトスポリジウム汚染指標菌	1,584
ビル管理関係	16 項目	147
	10 項目	107
	消毒副生項目	141
食品衛生関連	食品製造用水	106
	ミネラルウォーター	28
飲用井戸水等	化学・細菌検査	3,446

3) 検査方法

厚生労働省告示第 261 号、上水試験方法、食品衛生法等による試験法で各検査項目を測定する。

4) 検査システム

検体の搬入は、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が集荷する。水道事業体については職員が現地訪問により採取し、搬入後、理化学的検査と生物学的検査の部門別に検査を行い、検査成績書を発行する。



5) 登録検査機関

水道法に基づき指定検査機関として認可されていたが、同法の改正により平成16年2月27日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

また、ビル管理法に基づく水質検査は昭和47年より登録検査機関となっている。

(2) 簡易専用水道検査

1) 検査概要

目的・・・建築物等における安全な飲み水の確保
対象・・・マンション・学校・病院・事務所ビル等

2) 実施状況

2,111 件検査を受託し、前年度と比較し 14 件減少した。

① 受託検査数の年度別推移

(件)

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
2,078	2,106	2,125	2,127	2,104	2,118	2,125	2,111

② 平成 27 年度の検査実績

(件)

簡易専用水道		小規模 貯水槽水道他	総件数
現場検査	書類検査		
1,719	259	133	2,111

③ 平成 27 年度の不適合率

簡易専用水道	小規模 貯水槽水道	全 体
34.0%	23.4%	33.3%

※不適合率とは「良好」以外と判定された施設の割合

④ 簡易専用水道の不適合率の年度別推移

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
48.0%	45.5%	43.5%	44.0%	43.0%	38.2%	36.4%	33.3%

3) 検査方法

水道法、施行規則、厚生労働省告示、岡山県、岡山市及び倉敷市簡易専用水道の取扱に係る指導指針

4) 検査システム

検査実施については、設置者又は設置者の委託を受けた管理者等からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

水道法第34条2の第2項に基づく指定検査機関として昭和54年10月から検査を行っているが、同法の改正により平成16年3月31日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

(3) 浄化槽法定検査

1) 検査概要

目的・・・事業所・店舗や家庭等の浄化槽放流水による公共用水域の水質の保全
 対象・・・自治体、浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

7条検査 1,041 件、11条検査 49,448 件を合わせて 50,489 件の検査を受託し、前年度と比較し 216 件の減少であった。

① 法定検査数の年次推移

(件)

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
50,960	50,725	50,578	50,638	50,591	50,325	50,705	50,489

② 7条検査数の年次推移

(件)

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
1,739	1,608	1,237	1,269	1,118	1,062	1,201	1,041

③ 11条検査数の年次推移

(件)

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
49,221	49,117	49,341	49,369	49,473	49,263	49,504	49,448

④ 平成 27 年度の検査判定内訳

(件)

判定	7条検査	11条検査		
			みなし 浄化槽	合併処理 浄化槽
適正	784	35,848	10,458	25,390
概ね適正	248	13,160	3,633	9,527
不適正	9	440	253	187
総件数	1,041	49,448	14,344	35,104

3) 検査方法

浄化槽法、施行規則、環境省告示、岡山県及び岡山市要綱

4) 検査システム

○7条検査（設置後検査）

浄化槽設置者（又は施工業者）は、浄化槽設置前に設置票、7条検査依頼書に検査料金を添えて岡山県浄化槽施工協同組合の窓口へ提出する。

提出された書類、検査料金は後日検査機関へ送付され、7条検査の実施計画を立てる。

検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について8,000円（非課税）と定めている。

○11条検査（年1回定期検査）

浄化槽設置者（管理者）は、保守点検業者、清掃業者及び指定検査機関と一括契約方式により委託契約を結び、検査料金は保守点検業者の協力により保守点検料金に含めて徴収され、法定検査実施後に検査機関へ支払われる。

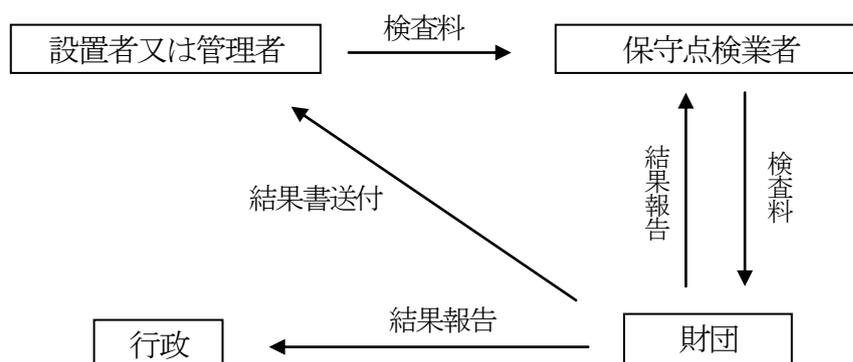
検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について5,700円（非課税）と定めている。

○検査について

検査は、外観検査、水質検査、書類検査について行い、設置者（管理者）に検査結果書を送付する。

検査結果で「不適正」と判定された浄化槽並びに未保守浄化槽については、関係行政機関、関係団体に報告し改善指導を要請している。

また、保守点検業者及び施工業者にも改善策を講ずるべく不適正の内容を報告している。



5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始する。

(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査

1) 検査概要

目的・・・事業所、店舗、家庭等の浄化槽放流水の水質状況確認、及び浄化槽の
浄化機能検査

対象・・・浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

6,349件検査を受託し、前年度より345件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
7,481	7,328	7,262	7,324	7,066	6,702	6,694	6,349

② 検査実績

(件)

27年度	機能検査	放流水検査
総検査項目数	615	5,734

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	6,445
BOD	5,878
COD	3,824
SS	3,662
ノルマルヘキサン抽出物質	754
全窒素	3,083
全りん	3,094
塩化物イオン	4,626
透視度	4,661
大腸菌群数	2,355
外観	6,428
臭気	4,661

3) 検査方法

衛浄第 34 条、JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、対象施設の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 指定検査機関

昭和 61 年 4 月に浄化槽法第 57 条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始する。

(5) 産業排水検査

1) 検査概要

目的・・・事業所等による排水の汚染状況確認
対象・・・自治体、事業所、ホテル、老健施設等

2) 実施状況

2,142 件検査を受託し、前年度より 69 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
5,465	3,150	2,798	2,550	2,969	2,251	2,211	2,142

② 検査実績

(件)

27 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	13,357	976

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	1,459
BOD	1,733
COD	2,026
DO	16
SS	1,533
ノルマルヘキサン抽出物質	1,669
全窒素	1,878
全りん	1,841
塩素イオン	272
カドミウム	106
鉛	111
六価クロム	158
シアン化合物	100
有機リン	74
ヒ素	94
総水銀	95
アルキル水銀	74
PCB	71
六価クロム溶出試験	47
大腸菌群数	976

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

(6) 河川水検査

1) 検査概要

目的・・・河川、海域及び湖沼等における自然環境の保全と安全な生活環境の確保
対象・・・自治体、事業所等

2) 実施状況

1,473 件検査を受託し、前年度より 94 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
1,600	1,423	2,035	1,617	1,847	1,512	1,567	1,473

② 検査実績

(件)

27 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	16,862	1,459

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	2,034
BOD	1,406
COD	1,639
DO	1,802
SS	1,625
ノルマルヘキサン抽出物質	349
全窒素	1,047
全りん	1,010
塩素イオン	168
カドミウム	167
鉛	193
六価クロム	150
シアン化合物	164
有機リン	8
ヒ素	235
総水銀	179
アルキル水銀	133
PCB	132
農薬（ゴルフ場等）	153
一般細菌数	15
大腸菌群数	1,041
大腸菌数	403

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

(7) 食品検査

1) 検査概要

目的・・・安心・安全な食品の確保、飲食物に起因する衛生上の危害防止
対象・・・自治体、食品製造業者、食品販売店及び給食事業所等

2) 実施状況

6,731 件検査を受託し、前年度と比較し 317 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
衛生検査	6,570	5,584	6,172	5,828	5,763	5,410	6,414	6,731
輸入食品 自主検査等	37	95	65	48	68	57	43	56

② 検査実績

(件)

27 年度	理化学的検査項目	細菌学的検査項目
検査項目数	3,365	14,284

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
栄養成分等検査	1,720
添加物等検査	146
重金属類の検査	493
農薬等検査	106
細菌数	3,310
大腸菌群	3,482
サルモネラ	1,706
黄色ブドウ球菌	2,170
腸炎ビブリオ	220
腸管出血性大腸菌	411
器具容器包装の検査	130
ノロウイルス	452

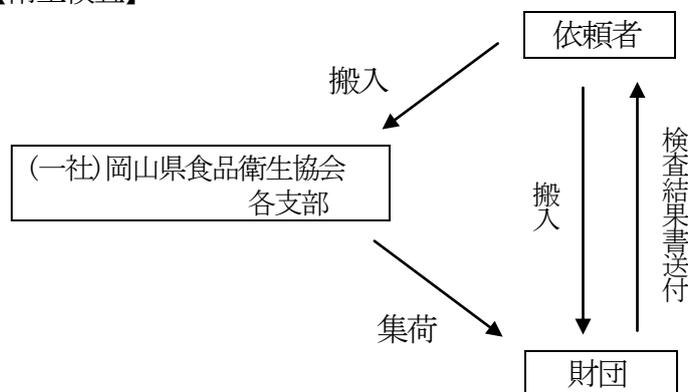
3) 検査方法

食品衛生法等に基づく公定法又は公定法に準拠した方法により、国の認可を受けた「検査実施標準作業書」等に基づき行う。

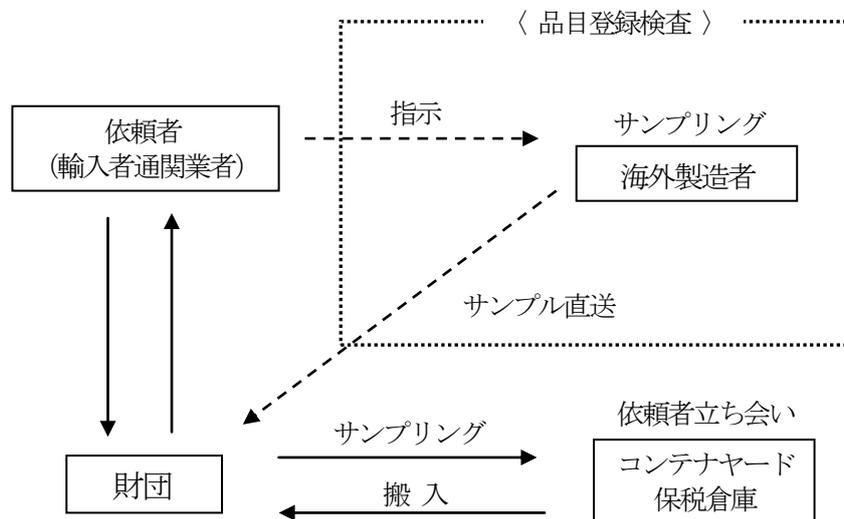
4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が集荷する。また、輸入食品等自主検査等は、登録検査員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、理化学的検査と細菌学的検査の検査を行い、検査結果書を送付する。

【衛生検査】



【製品検査・輸入食品等自主検査】



5) 登録検査機関

食品衛生法に基づき昭和 63 年 3 月 10 日付けで認可されていた「指定検査機関」が同法の改正により平成 16 年 2 月 27 日から厚生労働大臣が認可する「登録検査機関」に移行し、平成 21 年 2 月 27 日付けで厚生労働大臣から登録の更新を受けている。また、平成 21 年 6 月に食品衛生法第 26 条 3 項の追加登録を受け、輸入食品等命令検査の受託を開始した。

(8) 腸内細菌検査等

1) 検査概要

目的・・・腸内細菌に起因する衛生上の危害防止

対象・・・食品製造業者及び給食事業所等

2) 実施状況

8,523 件検査を受託し、前年度より 219 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
11,213	11,708	10,297	10,507	10,244	9,033	8,742	8,523

② 主な項目の検査数

(件)

	検査項目	件数
腸内細菌	赤痢・腸チフス・パラチフス	8,523
	サルモネラ	8,457
	腸炎ビブリオ	133
	腸管出血性大腸菌 (O-157 を含む)	8,350
砂場の砂	犬猫回虫卵	96
	砂場の細菌 (E. coli)	42

3) 検査方法

食の安全を確保するための微生物協議会の「食品関連従事者の腸管系病原菌保菌者検査マニュアル」に基づき行う。

4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が回収、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

(9) その他の検査

1) 検査概要

目的・・・プール、温泉等の衛生管理の保全とレジオネラ症の発症防止

対象・・・学校、温泉施設等

2) 実施状況

2,387 件検査を受託し、前年度より 513 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
1,571	1,470	1,470	1,294	1,316	2,403	1,874	2,387

② 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
プール水検査 (化学・細菌)	276
プール水検査 (トリハロメタン)	501
温泉検査	15
室内の化学物質検査	4
浴槽水検査	594
レジオネラ属菌検査	925

3) 検査方法

「遊泳用プールの検査基準について」及び「学校環境衛生の基準」に示された内容に沿って、定められた項目及び検査方法で検査を実施する。

温泉法、温泉法施行規則、鉱泉分析法指針に則り実施する。

室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について実施する。

4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が回収、あるいは職員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録温泉分析機関

(10) 精度管理

1) 環境部における ISO9001:2008 の運用状況

環境部及び北部支所においては、河川水・排水検査及び簡易専用水道検査部門で、顧客サービスの向上と品質管理システムの強化を目指す目的から、平成 14 年 10 月に（一財）日本品質保証機構（JQA）から ISO9001:2000 の認証を取得した。

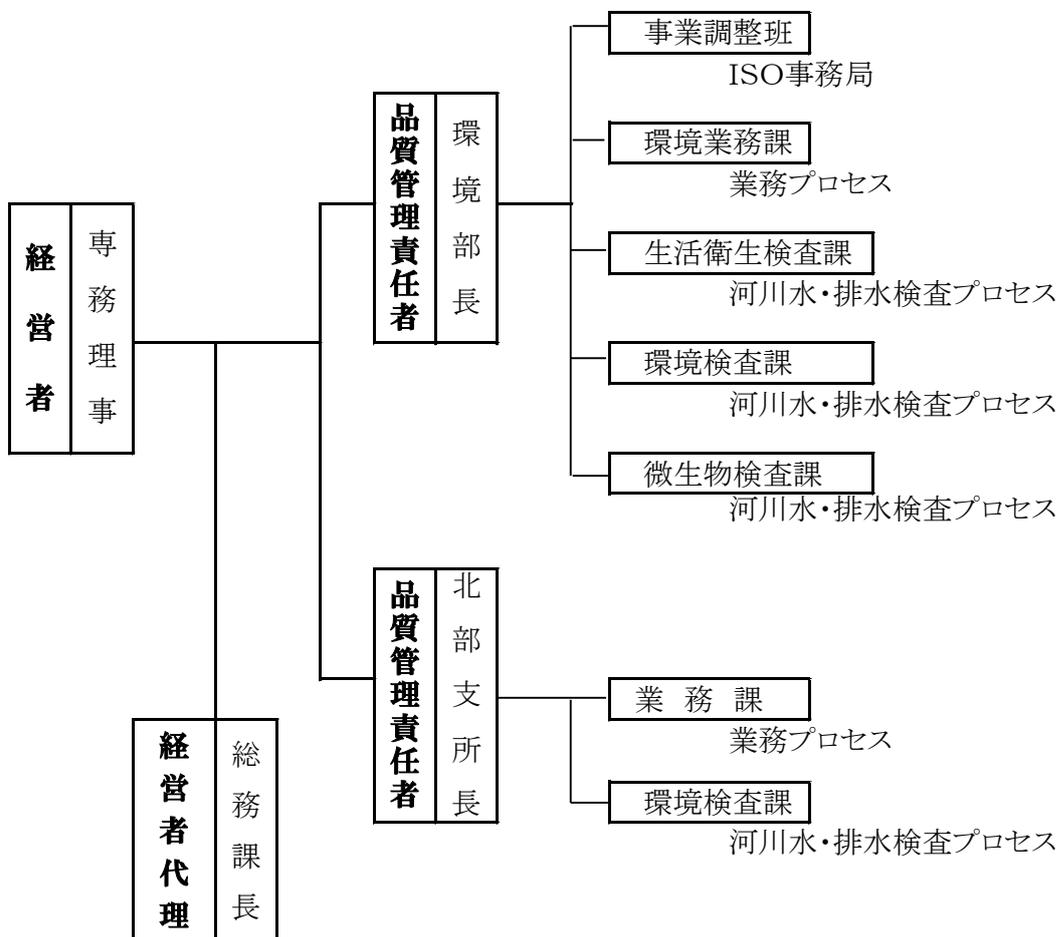
また、平成 22 年 9 月には、登録の更新と最新規格の ISO9001:2008 年版への移行審査を受けて「適合」と判断され、平成 25 年 11 月には認証を更新登録した。

なお、年 2 回の内部監査と年 1 回の外部審査を計画実行し、年度末には経営者によるマネジメントレビューで管理システムの有効性評価を行い、継続的改善に繋げている。

2) ISO 対象組織と責任体制

経営者に専務理事、その代理者を総務課長とし、品質管理責任者である環境部長並びに北部支所長を中心に品質管理体制の強化を図り、品質管理の継続的改善に努めている。

平成 27 年度の ISO9001 対象部門の体制



3) 水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部では飲料水検査部門において、平成 21 年 1 月に水質検査機関による水道水水質検査結果の信頼性確保を目的とした（公社）日本水道協会の水道水質検査優良試験所規範（水道 GLP）の認定を取得し、水道 GLP 品質管理マニュアルに従い、水道検査を適切に実施すると共に、内部及び外部精度管理の実施や記録の管理を厳重に行い、水道 GLP 体制の維持向上に努めている。

また、毎年厚生労働省が行っている水道水質検査の統一精度管理調査においては、連続して最高の評価を受けている。

4) 食品 GLP 体制の強化及び取り組み

食品衛生法では、登録検査機関で実施される試験検査結果の信頼性を確保するためのシステムとして GLP 体制の導入が義務づけられており、体制強化に職員一丸となって取り組むとともに、外部精度管理調査への参加や内部精度管理の計画的実施により、検査精度の維持・向上に努めている。

また、毎年、中国四国厚生局による立ち入り検査が実施され、その際の指摘事項については速やかに改善措置を講じている。

3 食鳥検査事業

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、厚生労働大臣の指定検査機関として岡山県知事の委任を受け、県内の大規模食鳥処理場5施設（ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設）に、13名の検査員（獣医師）を派遣し、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）をはじめ各種の鶏病等の検査を実施するとともに、検査不合格の食鳥の廃棄措置等を通じ安全な鶏肉流通の確保に努めた。

(単位：千羽)

区分 \ 年度	平成26年度	平成27年度	増減 (%)
食鳥検査羽数	15,319	15,722	102.6

1) 検査概要

目的・・・疾病罹患食鳥肉を排除し、食鳥肉に起因する衛生上の危害の発生を防止する。

対象・・・県内の大規模食鳥処理場（年間30万羽を超えて処理する施設）5施設。

(内訳：ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設)

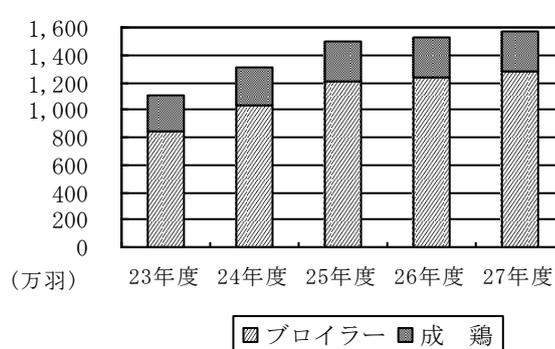
2) 実施状況

15,722,266羽の検査を実施し、前年度比102.6%であった。

内訳はブロイラー12,795,799羽（前年度比102.9%）、成鶏2,926,467羽（前年度比101.3%）であった。

① 検査羽数の推移

年度	(羽)		
	ブロイラー	成鶏	合計
23年度	8,411,892	2,609,795	11,021,687
24年度	10,305,701	2,748,679	13,054,380
25年度	12,112,752	2,796,706	14,909,458
26年度	12,430,314	2,889,068	15,319,382
27年度	12,795,799	2,926,467	15,722,266



② 検査実績

(平成 27 年度)

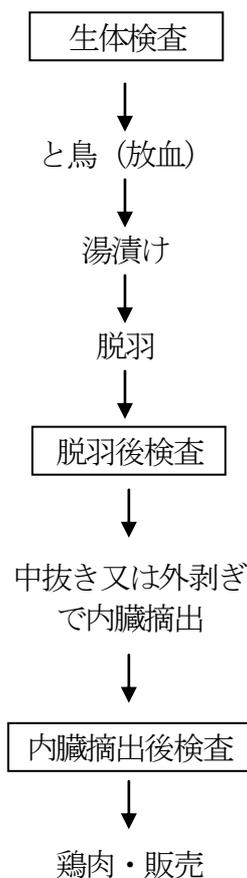
検査項目		廃棄区分		
		禁 止	全部廃棄	一部廃棄
ウイルス・クラミジア類	高病原性鳥インフルエンザ			
	鳥インフルエンザ			
	鶏痘			
	伝染性気管支炎			
	伝染性喉頭気管炎			
	伝染性ファブリキウス嚢病			
	ニューカッスル病			
	鶏白血病			
	封入体肝炎			
	マレック病			
その他				
細菌症	鶏マイコプラズマ病			
	大腸菌症	4,842	43,557	
	伝染性コリーザ			
	サルモネラ症			
	鶏結核病			
	ブドウ球菌症	29	121	
	その他			
毒血症	毒血症			
	膿毒症			
	敗血症	41	144	
	豚丹毒菌病			
	ロイコチトゾーン病			
	真菌症			
	原虫症（トキソ除）			
	寄生虫病			16
	変性	5,770	28,198	27,332
	尿酸塩沈着症			
他の疾病	水腫		1	1,739
	腹水症	12,240	24,167	
	出血	90	3,840	16,036
	炎症	987	6,076	275,819
	萎縮			
	腫瘍	9	5,301	6,184
	臓器の異常・色形臭等		6	
	異常体温			
	黄疸	2	7	
	外傷	12	499	11,660
その他	中毒諸症			
	削瘦・発育不良	17,166	9,706	
	放血不良	284	5,482	
	湯漬過度	10	621	
	その他	1	14,962	
	合 計	41,483	142,688	338,786
			522,957	

3) 検査方法

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、検査員（獣医師）が各処理場の従業員である食鳥処理衛生管理者と連携して検査を実施する。

4) 検査システム

鶏病の種類・程度等により「と鳥または解体禁止」、「全部廃棄」、「一部廃棄」に分類し処理される。



高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の検査は、疑わしい場合に簡易検査キットを使用して検査する。

5) 法律上の位置づけ

厚生労働大臣の指定検査機関であり、また、岡山県知事の委任検査機関である。

4 附属病院

医療の提供

診療科は内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、放射線科、リハビリテーション科で、病床数126床で運営している。

呼吸器疾患の専門性を活かし肺結核、慢性呼吸不全、気管支喘息、肺がんなどの治療に取り組むとともに、気管支鏡検査をはじめとした確定診断や治療法の選択を行い、他の医療機関からの患者紹介に対応している。

また、病院が行う健康診断や財団内の人間ドック部門・健康診断部門・健康増進部門との連携により、脳卒中、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、禁煙指導にも重点を置いており、ニコチン依存から逃れるための禁煙外来や啓発のための講師派遣も行っている。

(1) 外来状況

1) 概要

内科全般を広く診療し、特に呼吸器疾患に対する専門医の適切な診断・治療に取り組んでいる。

また、生活習慣病の早期発見、早期治療のため健康診断を実施し予防医療に努めている。

診療時間：平 日 9：00～12：00 13：30～17：00
 土曜日 9：00～12：00（健康診断は行っていない）

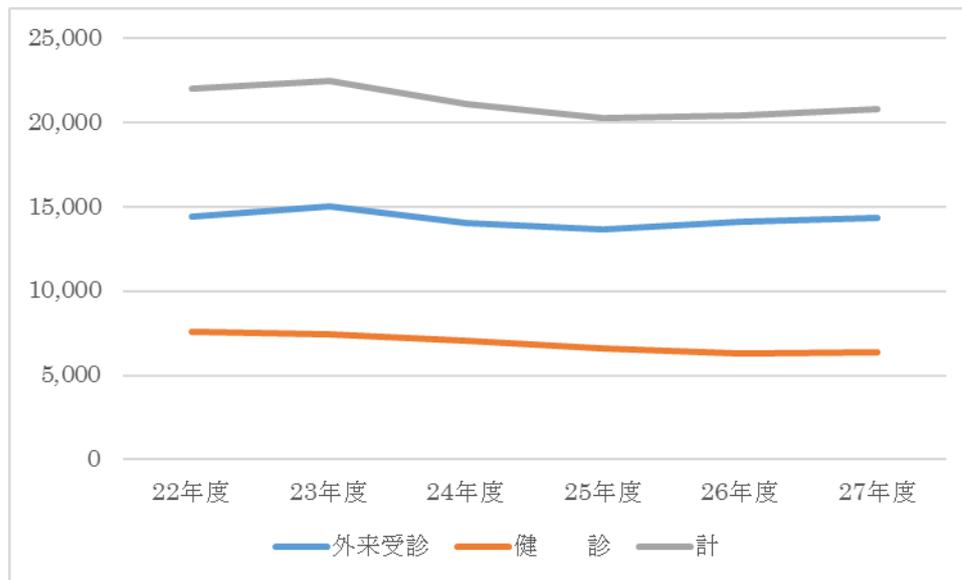
2) 状況

① 年度別外来受診・健診の状況

(人)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
外来受診	14,387	15,016	14,044	13,652	14,112	14,366
健 診	7,612	7,451	7,044	6,584	6,304	6,400
計	21,999	22,467	21,088	20,236	20,416	20,766

② 外来患者年度推移



(2) 入院状況

1) 概要

呼吸器疾患の専門性や一般病棟と療養病棟の併設メリットを活かしながら、「信頼される医療の確保」、「心のかよう看護の推進」に取り組んでいる。

機能性と安全性を重視した医療設備により、専門的で人に優しい医療の提供を行っている。

病棟
看護体制

結核46床 (内休止26床) 一般40床 療養40床
2交代制

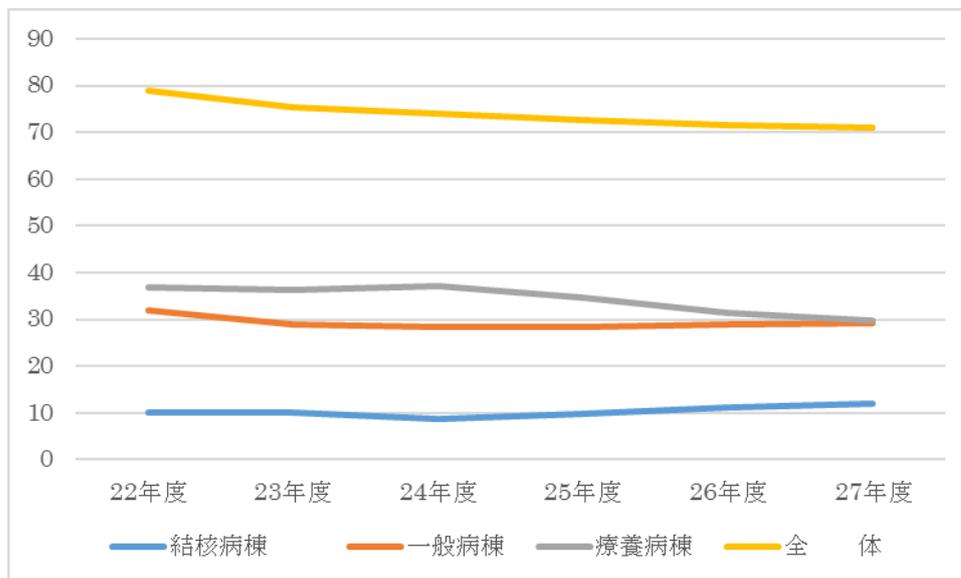
2) 状況

① 年度別入院患者の状況 (1日当たりの患者数)

(人)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
結核病棟	10.1	10.2	8.6	9.7	11.2	12.1
一般病棟	32.0	28.9	28.3	28.4	29.0	29.1
療養病棟	36.8	36.2	37.0	34.6	31.3	29.7
全体	78.9	75.4	73.9	72.7	71.5	70.9

② 入院患者年度推移



(3) リハビリテーション

各種リハビリ機器を備えた訓練室と理学療法士による専門的リハビリにより、QOLを高めるとともに機能回復に努めている。

本院は、呼吸器の専門病院でもあるため、COPDなど呼吸器疾患の患者に呼吸方法の指導や運動療法など、在宅での自己管理についても指導している。

(4) 先進の医療機器による検査

早期発見、早期治療のため、電子内視鏡、超音波断層装置、CT、MRIを活用し、的確な診断のもとに治療を行っている。

(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供

医療安全管理委員会、感染予防対策委員会などの各委員会の活性化を図り、安全・安心な医療サービスの提供に努めている。

また、小集団活動で病棟の清潔な環境確保等に取り組むとともに、高齢者にも食べやすく美味しくソフト食の提供など調理方法の工夫を行っている。

(6) 地域連携の推進

地域連携室を設け、地域の病院や診療所と連携し、紹介患者のスムーズな受け入れに努めており、入院患者の約7割が地域の病院・診療所からの紹介となっている。

また、開業医との連携を密にし、短期入院患者の受け入れに努めるとともに、平成22年度から退院支援調整室を設置し退院支援等を実施している。

(件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
退院支援計画書作成件数	64	62	126	106	100	71
介護支援連携指導件数	85	72	94	80	54	49

(7) 結核医療連携拠点病院の指定

平成25年2月に岡山県から結核診療連携拠点病院に指定され、結核患者への高度医療提供、研修会の開催、医療機関からの相談等を行っている。

相談件数

(件)

相談機関	25年度	26年度	27年度
病院	6	31	36
診療所	1	6	12
高齢者施設		3	3
保健所		5	4
大学、学校		1	1
その他		8	2
計	7	54	58

※25年度は10月から

(8) 指導・相談

1) 医療相談

医療ソーシャルワーカーを中心に、入院相談や退院支援を行うとともに、地域医療機関や老健・介護保健施設との連携に努めている。

また、患者サポート体制の充実に取り組み、入院、外来患者の心理的・経済的な相談・支援に取り組んでいる。

2) 服薬指導

薬剤師が正しい薬の知識をわかりやすく説明している。また、症状にあった正しい服薬について指導を行っている。

3) 栄養指導

管理栄養士が個人の病状にあった、実行可能で長続きする食事療法の指導を行っている。

服薬・栄養指導件数

(件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
服薬指導	623	585	558	545	702	642
栄養指導	218	353	339	381	527	554

(9) 財団各部門との連携

人間ドック、保健部、南部健康づくりセンターと連携し、地域住民の生活習慣病予防対策に取り組んでいる。

また、糖尿病教室を開催し、地域の方々の健康づくりに取り組んでいる。

	開催日	参加者数	講演内容
第1回	27. 7.27	6人	・糖尿病栄養教室 基礎から学ぼう！糖尿病の食事療法 ～食品交換表ってなに～
第9回	27.10.31	13人	・糖尿病教室 ～世界糖尿病デーによせて～
第2回	28. 3.26	9人	・糖尿病栄養教室 ～食品交換表を使ってみよう～

(10) 難病相談・支援事業

岡山県から「岡山県難病相談・支援センター業務」を受託し（平成16年10月～）、難病患者やその家族からの療養上の悩みや不安、就労等に関する相談に対応している。

相談件数

(件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
電話相談	591	736	819	955	799	561
面接相談	167	182	196	199	146	150
メール相談	87	120	208	165	114	72
合計	845	1,038	1,223	1,319	1,059	783

交流会、研修会の開催

定例患者交流会等（平成22年度 29回、平成23年度 28回、
平成24年度 28回、平成25年度 29回、
平成26年度 29回、平成27年度 30回）

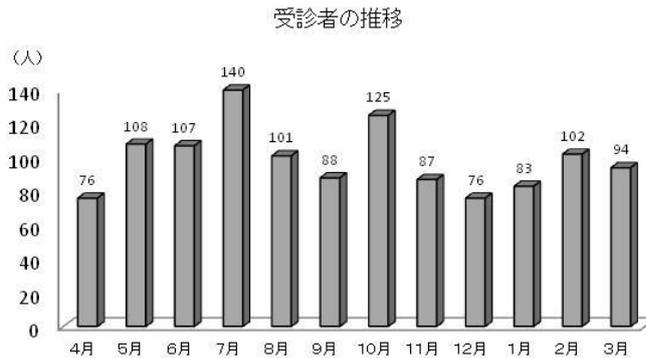
5 南部健康づくりセンター

(1) 健康増進部門

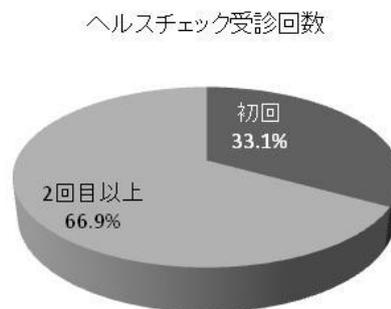
1. ヘルスチェックの状況

1) 受診者の推移

ヘルスチェック受診者は年間1,187人、1ヵ月平均99人であった。

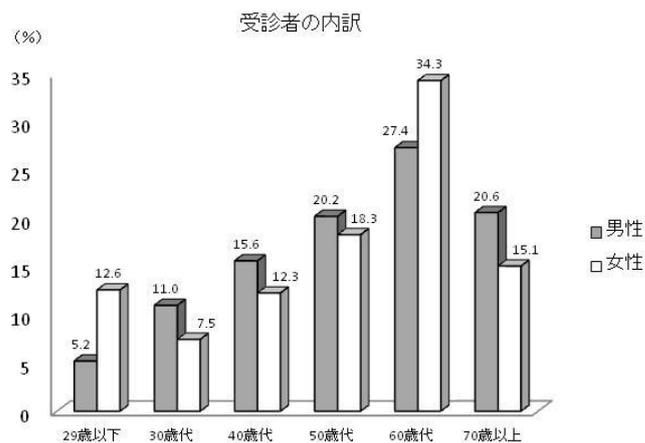


ヘルスチェックの受診回数は、初回が33.1%、2回目以上が66.9%であった。

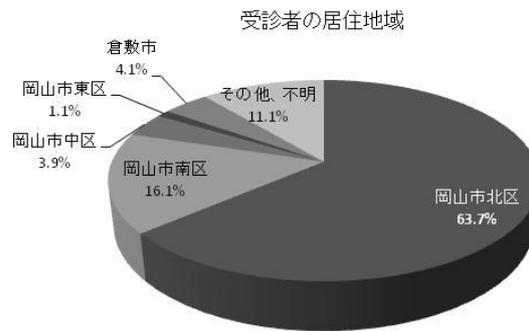


2) 受診者の内訳

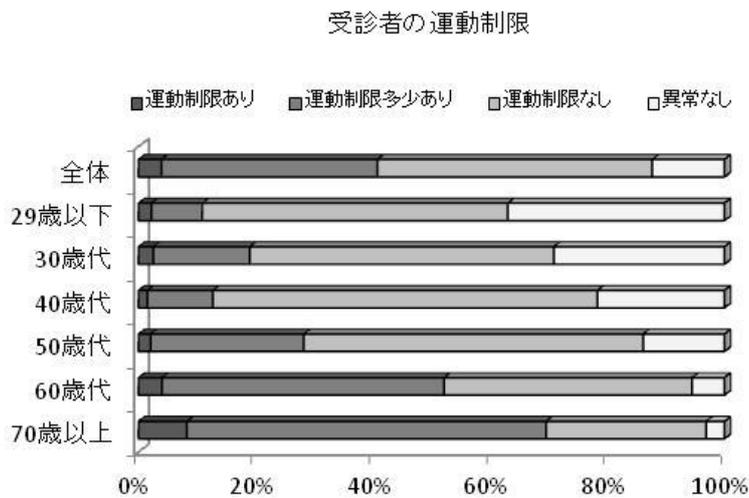
ヘルスチェック受診者の内訳を性別で見ると男性が44.6%、女性が55.4%であった。年代別で見ると男性、女性ともに60歳代が最も多かった。



ヘルスチェック受診者の居住地を市町村別にみると、全受診者のうち 84.8%が岡山市に在住し、ついで倉敷市が多かった。

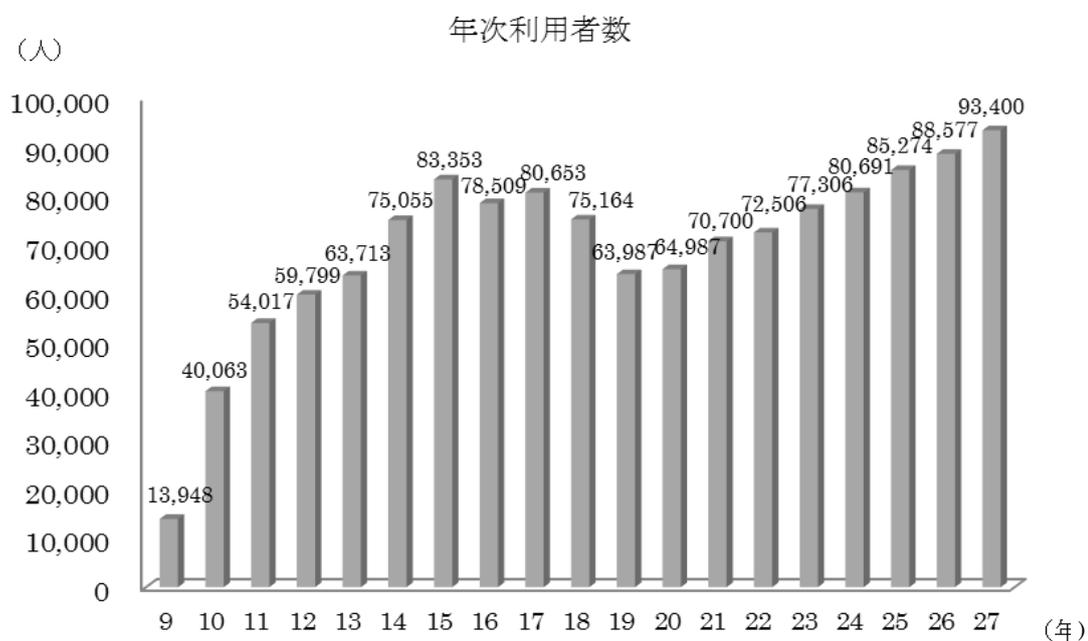
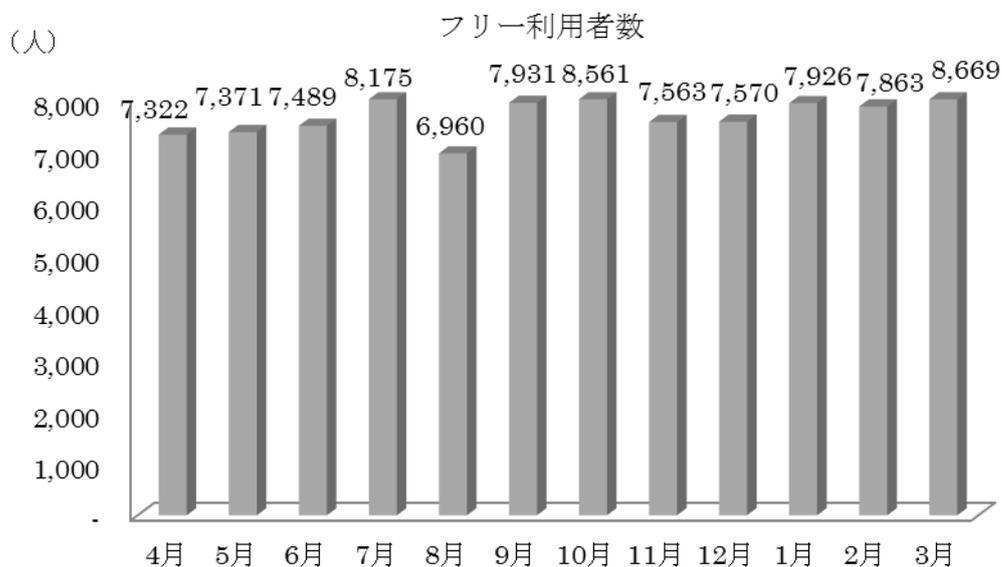


運動制限の程度をみると、何らかの運動制限のあった人は全体では 40.8%であったが、60 歳代では 52.2%、70 歳以上では 69.5%であった。



2. 施設自由（フリー）利用状況

施設フリー利用者数は年間 93,400 人、1 ヶ月平均 7,783 人、1 日平均 298 人であった。
前年度と比較すると、年間利用者数は 4,823 人の増加となった。



3. お手軽教室

1) 教室内容

平成27年度は、計81教室を開講した。

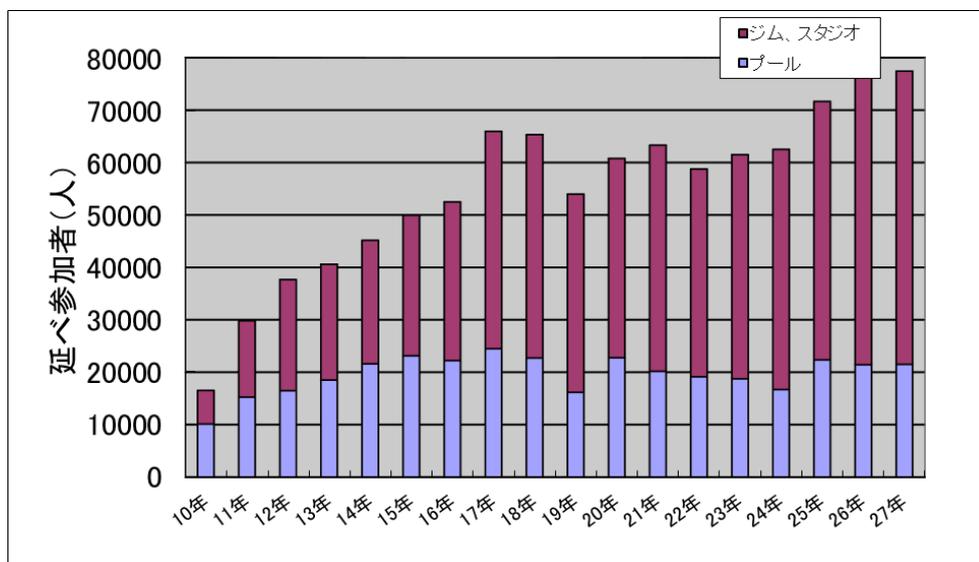
週あたりのお手軽教室開講数（平成27年11月現在）

水泳	超初級	2
	初級（週の泳法）	4
	初中級（週の泳法）	1
	初中級（クロール）	1
	初中級（クロール or 背泳ぎ）	1
	中級（週の泳法）	2
	中上級（週の泳法）	1
	中上級（インターバル）	2
	ステップアップ四泳法中上級	1
	レッツ四泳法中上級	1
	上級（週の泳法）	2
	スキルアップ四泳法上級	1
	水中運動	膝腰ゆっくり水中運動
膝腰スッキリ水中運動		1
ひきしめ水中運動		1
アクアサーキット		1
アクアビクス		3
エンジョイアクア		1
エアロビックダンス	フラエアロ	1
	シンプルエアロ	1
	かんたんエアロ	2
	やさしいエアロ	3
	ちょっとがんばるエアロ	4
	オリジナルエアロ	2
	なかなかエアロ	2
	がんばるエアロ	2
ジム	ラジオ体操	2
	ゆっくりボール	1
	すっきりストレッチ	1
	スッキリ体操	1
	肩スッキリ体操	1
	ダンベル体操	1
	すわって健脚ストレッチ	1
	すわって健脚体操	1
	すわってスッキリ体操	1
	すわってルンルンビクス	1
	おまかせマット	1

	元気健脚サーキット	1
	やさしいステップ	1
	ひきしめステップ	1
	エンジョイステップ	1
	オリジナルステップ	1
	ステップサーキット	1
	ひきしめボディ	2
	レッツジョギング	1
太極拳	はじめての太極拳	1
	太極拳	1
その他	ストレッチポール	2
	マットオリジナル	1
	ストレッチヨガ	1
	オリジナルヨガ	1
	リラックスヨガ	1
	リフレッシュヨガ	1
	パワーヨガ	1
	シェイプヨガ	1
	ピラティス or ポル・ド・ブラ	1
	ピラティス	1
	エンジョイフラ	1
	インスピレボリューション	1
	デュエルボクシング	1

2) 参加者の推移

今年度のお手軽教室の延べ参加者数は、77,430人で過去最高の参加者数であった。プール教室の延べ参加者数は21,495人と、全体の約3割であった。



4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室

調理実習と健康に関する講話により、正しい情報の提供と健康に関する知識の普及を行いながら食生活の改善を図るとともに、旬の食材の良さや季節の料理を伝える場として健康づくり栄養講座を開催した。また、パンやお菓子作りの技術や目新しいおもてなしメニューを学ぶ場として外部講師による料理教室を開催した。

健康づくり栄養講座は、全 60 回の開催で延べ 634 人の参加者があった。外部講師による料理教室は、全 9 回の開催で延べ 65 人の参加があった。

〈健康づくり栄養講座〉

【前期】

日時	テーマ	内容	参加人数(人)	
平成27年4月9日	春のイタリアン	サルコペニアについて	6	
平成27年4月17日			19	
平成27年5月14日	ヘルシーフレンチ	認知症予防の食事	10	
平成27年5月29日			12	
平成27年6月11日	かんたん中華料理	添加物について	6	
平成27年6月19日			17	
平成27年7月10日	夏のおもてなし料理	夏野菜の効能	16	
平成27年7月16日			6	
平成27年8月20日	夏のスタミナ料理	災害時の食事対策	11	
平成27年8月28日			15	
平成27年9月10日	かんたん薬膳料理	秋野菜の効能	7	
平成27年9月18日			13	
平成27年4月23日	初心者のための栄養講座	つくね	6	
平成27年4月25日			11	
平成27年5月21日		エビチリ	10	
平成27年5月24日			8	
平成27年6月20日		魚のポワレ	12	
平成27年6月25日			10	
平成27年7月26日		メンチカツ	12	
平成27年7月30日			9	
平成27年8月22日		レバニラ	10	
平成27年8月27日			6	
平成27年9月17日		鶏肉のトマト煮込み	9	
平成27年9月27日			10	
平成27年4月15日		簡単ヘルシースイーツ&ハーブティー	和菓子①&ハーブティー	7
平成27年5月20日			洋菓子①&ハーブティー	10
平成27年6月17日			野菜&果物のお菓子①&ハーブティー	12
平成27年7月15日			和菓子②&ハーブティー	7
平成27年8月19日			洋菓子②&ハーブティー	7
平成27年9月16日			野菜&果物のお菓子②&ハーブティー	9

【後期】

日時	テーマ	内容	参加人数(人)	
平成27年10月9日	秋のおもてなし料理	貧血予防の食事	14	
平成27年10月22日			10	
平成27年11月13日	クリスマス料理	いろいろな油について	18	
平成27年11月26日			12	
平成27年12月10日	おせち料理	糖尿病予防の食事	17	
平成27年12月25日			20	
平成28年1月15日	おしゃれにカフェ風ごはん	コーヒー、紅茶の効用	18	
平成28年1月28日			9	
平成28年2月19日	タイ料理に挑戦	いろいろな調味料について	18	
平成28年2月25日			4	
平成28年3月18日	春野菜で日本料理	花粉症予防について	16	
平成28年3月24日			8	
平成27年10月24日	初心者のための栄養講座	ポークソテー	12	
平成27年10月29日			8	
平成27年11月15日		ぶり大根	12	
平成27年11月19日			8	
平成27年12月12日		コロッケ	12	
平成27年12月17日			9	
平成28年1月21日		鶏の治部煮	6	
平成28年1月31日			14	
平成28年2月18日		ニョッキ	8	
平成28年2月27日			10	
平成28年3月13日		豚の角煮	16	
平成28年3月17日			4	
平成27年10月14日		簡単ヘルシースイーツ&ハーブティー	和菓子①&ハーブティー	8
平成27年11月11日			洋菓子①&ハーブティー	9
平成27年12月9日	野菜&果物のお菓子①&ハーブティー		8	
平成28年1月13日	和菓子②&ハーブティー		10	
平成28年2月10日	洋菓子②&ハーブティー		7	
平成28年3月9日	野菜&果物のお菓子②&ハーブティー		6	

外部講師料理教室

【おうちでcafé】

日時	テーマ	内容	参加人数(人)
平成27年5月22日	アフタヌーン パーティー	サンドイッチ、スコーン、パタフライケーキ、レモンクリーム	9
平成27年6月26日	おうちでイタリアン	アヒージョ、塩パン、パプリカとアンチョビのオレキエッテ、ティラミス	4
平成27年7月24日	おうちでハワイアン	ロコモコ、ハワイ風ガーリックシュリンプ、パンケーキ、桃の冷たいスープ	7

【手ごねで美味しいパン教室】

日時	テーマ	内容	参加人数(人)
平成27年9月25日	夏の思い出～秋への想い～	ホットビスケット&パッションフルーツソース、枝豆のピシソワーズ、ジャーサラダ、季節のデザート&ハーブティー	8
平成27年10月23日	ハロウィーン特集	プチパンのバリエーション、かぼちゃとベーコンのヨーグルトサラダ、濃厚マッシュルームのスープ、季節のデザート&ハーブティー	6
平成27年11月27日	深まりゆく秋～ワインに合います～	ブラックオリーブのフーガス、海老とブロッコリーのカレースープ、クスクスと秋野菜のサラダ、季節のデザート&ハーブティー	9

【手ごねで美味しいパン教室Ⅱ】

日時	内容	参加人数(人)
平成28年1月22日	きのこのパン&サラダ、ガレット・デ・ロワ、チョコのケーキ	6
平成28年2月26日	クロワッサン&サラダ、ポップオーバー、心も体も温まるスープ	7
平成28年3月25日	いちごミルクパン、抹茶シフォンケーキ、アスパラとサーモンのスパゲティ	9

3) リラクゼーションセミナー

セミナーの内容

リンパマッサージのテーマで外部講師を招き、前期は6回、後期は6回実施した。各セミナーとも90分間で、テーマに沿った講話やリラクゼーション実技を行った。

全12回の開催で、延べ100人の参加があったが、女性の参加が多く、年齢は20歳代～70歳代と幅広かった。

前期

日時	テーマ	参加者数
平成27年4月22日	下半身のむくみを解消！	10
平成27年5月27日	ペアでもできる 足のリンパマッサージ	7
平成27年6月24日	リラクスのための ハンドマッサージ	7
平成27年7月22日	手と頭から体を癒す ビューティーアップ	6
平成27年8月26日	小顔にダイエット・美容&ストレス解消	14
平成27年9月30日	病気予防と不調改善・即効ツボ	15

後期

日時	テーマ	参加者数
平成27年10月28日	足のむくみを解消して、スラリと美脚！！	7
平成27年11月18日	小顔&若顔のためのフェイシャルマッサージ	12
平成27年12月2日	手の冷え予防&肩こり改善☆	6
平成28年1月28日	疲れがとれる！すっきり足美人	4
平成28年2月24日	自分でできる！！ヘッドマッサージ	7
平成28年3月23日	まとめのお楽しみマッサージ	5

4) 健康増進指導体験

年間の利用件数は1件、利用者数は36人であった。

開催日	参加団体名	コース	参加人数
平成27年11月17日(水)	真庭市愛育委員会 勝山支部	休養	36

(2) 教育・研修部門

1. 派遣事業

年間を通して73件の派遣依頼を受託した。

実施日	実施元	会名	講座名	人数	派遣者
5/7	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	14	豊田 加奈子
5/14	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	9	高橋 卓也
5/16	吉備中央町愛育委員会	平成27年度 吉備中央町愛育委員会・栄養改善協議会合同研修会	講演『これからの健康づくりと愛育・栄養委員の役割』	150	發坂 耕治
5/18	総社市愛育委員協議会	総社市愛育委員協議会研修会		230	發坂 耕治
5/20	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	20	高橋 卓也
5/21	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	10	國橋 由美子
5/26	中国電力岡山支社	年代別健康づくり教育		55	高橋 祐子
5/26	(一社)岡山市老人クラブ連合会	岡山市老人クラブ連合会総会	講演	400	森下 明恵
5/28	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストレスとこころの健康	10	後藤 礼子
5/29	備北保健所 新見栄養改善協議会・岡山県備北保健所	平成27年度 備北保健所新見栄養改善協議会 新見市栄養改善協議会総会並びに研修会	講演『地域ぐるみで取り組む糖尿病予防対策 ～これからの健康を健やかに暮らすために～』	120	發坂 耕治
6/2	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	12	豊田 加奈子
6/5	赤磐市	健康教室	講話・体操	50	山下 裕絵
6/11	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	17	高橋 卓也
6/11	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストレスとこころの健康	7	後藤 礼子
6/18	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	9	國橋 由美子
6/18	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	15	高橋 卓也
6/22	環太平洋大学 体育学部 健康科学科	健康科学科キャリア養成科目	「キャリアデザイン」	53	高橋 祐子
6/24	建設国保岡山県支部	健康管理講座	健康体操とジェネリックって何？	15	山下 裕絵
6/25	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	5	高橋 卓也
6/28	(公社)岡山県難聴者協会	(公社)岡山県難聴者協会総会	難聴者のための健康教室(生活習慣病予防のための運動)	30	斉藤 剛
7/2	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストレスとこころの健康	21	後藤 礼子
7/9	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	17	豊田 加奈子
7/14	公立学校共済組合岡山支部	職場の健康づくり研修会支援事業	メタボリックシンドローム予防研修会	70	斉藤 剛
7/16	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	17	高橋 卓也
7/16	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストレスとこころの健康	17	後藤 礼子
7/24	特別擁護論入ホーム 喜福園	腰痛予防		30	高橋 卓也
8/6	吉備中央町商工会	平成27年度若手後継者等育成事業	『働く女性の健康管理』	20	後藤 礼子
8/6	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会	栄養講座	10	豊田 加奈子
8/19	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操		19	高橋 卓也
9/1	公立学校共済組合岡山支部	職場の健康づくり研修会支援事業	腰痛予防研修会	40	山下 裕絵
9/2	岡山県老人クラブ連合会	平成27年度(第10次)岡山県老人福祉大学	講演「老後を楽しく過ごすための心がけ」	200/300	發坂 耕治
9/4	岡山県老人クラブ連合会	平成27年度(第10次)岡山県老人福祉大学	講演「老後を楽しく過ごすための心がけ」	200/300	發坂 耕治
9/10	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストレスとこころの健康	16	後藤 礼子
9/11	岡山県老人クラブ連合会	平成27年度(第10次)岡山県老人福祉大学	講演「老後を楽しく過ごすための心がけ」	200/300	發坂 耕治
9/14	岡山県老人クラブ連合会	平成27年度(第10次)岡山県老人福祉大学	講演「老後を楽しく過ごすための心がけ」	200/300	發坂 耕治
9/17	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	4	國橋 由美子
9/18	就実大学・就実短期大学	健康教室	講演「老後を楽しく過ごすための心がけ」	6	後藤 礼子
10/1	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	18	高橋 卓也
10/6	公益財団法人 三菱化学株式会社水島工場	ウォーキング講座		50	森下 明恵
10/8	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストレスとこころの健康	9	後藤 礼子
10/8	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会	のびのびストレッチ	10	高橋 卓也
10/13	地方職員共済組合岡山県支部支部長	健康づくりチャレンジコンテスト2015	出前ウォーキング講座	15	斉藤 剛
10/15	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	ストップ！動脈硬化～減塩のススメ～	4	豊田 加奈子
10/16	和気町役場 健康福祉課 独立行政法人	第6回栄養教室 健康づくりの運動	おせちで健康！減塩ヘルシーおせち料理の講習	55	豊田 加奈子
10/21	高齢・障害・求職者雇用支援機構	健康づくりの運動		20	森下 明恵
10/22	地方職員共済組合岡山県支部支部長	健康づくりチャレンジコンテスト2015	出前ウォーキング講座	16	高橋 卓也
10/25	岡山新聞社	山陽新聞健康セミナー	アンチエイジング体操	300	斉藤 剛
10/27	地方職員共済組合岡山県支部支部長	健康づくりチャレンジコンテスト2015	出前ウォーキング講座	15	高橋 祐子
10/31	岡山県健康づくり財団附属病院	第9回糖尿病教室	生活の中で運動のチャンスを見つけよう～かんたんストレッチ～	15	山下 裕絵
11/5	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	9	高橋 卓也
11/5	赤磐市栄養改善協議会	赤磐市栄養改善協議会視察研修	糖尿病予防の講話及び調理実習	18	國橋 由美子
11/6	岡山県備前県民局	健康管理セミナー		20	斉藤 剛
11/10	岡山県備前県民局	健康管理セミナー	楽しく学べる健康づくりセミナー 『心も健康に働くために』『メタボ予防の運動について』	20	高橋 祐子 後藤 礼子
11/13	備中保健所井笠支所管内家族会連合会	平成27年度管内交流会		50	森下 明恵
11/17	真庭市愛育委員会勝山支部	健康教室	栄養コース	36	後藤 礼子
11/18	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操		18	高橋 卓也
11/18	公立学校共済組合岡山支部	職場の健康づくり研修会支援事業	メタボリックシンドローム予防研修会 『メタボリックシンドローム予防のための運動や食事についての知識の取得』	66	豊田 加奈子
11/19	公益財団法人 岡山県建設技術センター	出前健康教室	すわって健康体操	13	高橋 卓也
11/20	公益財団法人 岡山県看護協会	平成27年度「個人会員の集い」	軽体操でリフレッシュ	15	斉藤 剛
11/23	公益財団法人 岡山県医師会	産業医研修会(特定検診・特定保健指導研修会)		150	山下 裕絵
11/27	(一財)日本学校保健学会	(一財)日本学校保健学会第62回学術大会	教育講演「性同一性障害などの子どもたち 知っておきたい3つのこと」		関 明徳
12/4	備前市	特定保健指導(積極的支援・動機づけ支援)1回目	講話・運動指導「やせる体操」	20	斉藤 剛
12/8	岡山県福祉相談センター	平成27年度健康管理セミナー	ロコモ予防と運動	15	森下 明恵
12/9	特別擁護論入ホーム 喜福の里	腰痛予防体操		25	高橋 卓也
12/26	近畿警備保障㈱	健康教室(栄養コース)		85	後藤 礼子
1/14	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会	栄養講座	10	國橋 由美子
1/21	専門学校 岡山情報ビジネス学院	医療福祉演習	健康づくりのための運動について	20	高橋 祐子
2/2	備前市	特定保健指導(積極的支援・動機づけ支援)2回目	講話・運動指導「やせる体操」	10	森下 明恵
2/17	辰巳高齢者体操クラブ	高齢者体操		21	高橋 卓也
2/27	岡山新聞事業社	住まいるリフォームフェア	ストレッチで快適生活	20	高橋 祐子
3/10	備前市吉永地区老人クラブ連合会	健康体操講習会		40	森下 明恵
3/12	岡山市役所(岡山市立南公民館)		講演『これからの健康づくりのすすめ方』	35	發坂 耕治
3/17	備前保健所(玉野菜の花会)	玉野難病患者家族会研修会	講演『上手な心と体の休め方～リラックス方法～』	15	後藤 礼子

2. 図書資料室(沼田文庫)

一般書から専門書まで健康に関する図書約5,300冊、ビデオ約50本が閲覧できる。

平成17年9月から3階にある図書資料室より一般向けの図書、ビデオを一部おろし、1階有料ゾーンに閲覧、貸し出しができるように書庫を配置した。また平成26年12月より、蔵書の多くを1階健康増進施設のロビーに降ろし、「沼田文庫」と称した。それにより図書の閲覧が増え、貸し出し件数も増加した。貸し出しを受けた人数、貸し出された図書の冊数は、1年間で150人、217冊の利用があった。

3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室

1) 大会議室

貸し出し件数は、年間26件であった。

2) 小会議室

貸し出し件数は、年間80件であった。

3) 栄養指導室

貸し出し件数は、年間29件であった。

4) 多目的聴講室

貸し出し件数は、年間18件であった。

4. 研究室の開放

貸し出し件数は、年間1件であった。

(3) 調査・研究部門

1. 業績

1) 論文

- ア Relationship between cigarette smoking and one leg with eyes closed balance in Japanese
Takeshi Saito, Nobuyuki Miyatake, Kenji Nishii (Environmental Health and Preventive Medicine 20: 388-391, 2015.)

2) 学会発表

- ア コンピュータによる受診者誘導システムに基づいた検診所要時間の予測とその短縮化への試み
関明穂、木下普美子、栗原文子、中川邦宏、小橋恒夫、沼本律志、中西恵子、佐々木佐紀子、發坂耕治 (第56回 日本人間ドック学会. 2015年7月30日~31日、神奈川県)

イ 日本人における出生時体重と筋力との関係における年齢差
青山友子、宮武伸行、發坂耕治、関明穂ほか（第4回日本 DOHaD 研究会学術集会、
2015年8月1日、東京都）

ウ 日本人における出生時体重と筋力との関係
青山友子、宮武伸行、發坂耕治、関明穂ほか（第70回日本体力医学会大会、2015年
9月20日、和歌山県）

3) 教育講演

ア 性同一性障害などの子どもたち 知っておきたい3つのこと
関明穂（第62回 日本学校保健学会、2015年11月28日～29日（岡山県））

イ 性同一性障害などについて
関明穂（思春期ホットライン 研修会、2016年2月14日（広島県））

4) 研究助成

ア 健康づくりのための運動基準・運動指針改定ならびに普及・啓発に関する研究
主任研究者 宮地元彦（独立行政法人 国立健康・栄養研究所）
分担研究者 佐々木佐起子（岡山県南部健康づくりセンター）
厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

イ 現在の健康状態に及ぼす出生時体重と出生後の生活習慣の影響
主任研究者 田中茂穂（独立行政法人 国立健康・栄養研究所）
分担研究者 関 明穂（岡山県南部健康づくりセンター）
日本学術振興会 科学研究費補助金・特別研究員奨励費

ウ 糖尿病患者のライフスタイルと健康状態との関連性に関する基礎調査
主任研究者 住吉和子（岡山県立大学保健福祉学部看護学科）
分担研究者 関 明穂（岡山県南部健康づくりセンター）
科学研究費助成事業（学術研究基金助成）基礎研究

(4) スポーツ医科学部門

1. 受診者数及びその内訳

ファジアーノ岡山（サッカー）の1人、興譲館高校（女子陸上部長距離）14人が筋力測定を受けた。興譲館高校（女子陸上部長距離）の5人、環太平洋大学（研究のため）の19人が運動負荷試験を受けた。

(5) 健康診断（人間ドック）部門

1. 人間ドック

1) 受診者の内訳

年間で 8,898 件(男性 5,600 人、女性 3,208 人、計 8,808 人)の受診があり、前年度比 100.2 %の受診者数となった。

2) 検査項目別

部位・臓器・検査方法別の検査結果を以下に示す。

なお、現在医療機関でそれぞれの検査項目に関して治療中か経過観察中のものを「治療中」とした。それ以外のもののうち、検査項目内の結果がすべて正常であったものを「異常なし」、いずれかの検査結果が正常範囲からはずれているが問題ない範囲のものを「有所見」、経過観察が必要なものを「要観察」、医療機関での精密検査あるいは治療を要するものをそれぞれ「要精検」「要治療」とした。

また、「異常なし」「有所見」以外のものをまとめて「要観察以上」、検診によって新たに医療を要することが指摘された「要精検」「要治療」をまとめて「要医療」とし、各検査項目の受診者全体に対する「要観察以上」「要医療」のものの割合を算出した。

① 肥満度

BMI18.5 未満を低体重、18.5 以上 25.0 未満を普通体重、25.0 以上 30.0 未満を肥満 1 度、30.0 以上 35.0 未満を肥満 2 度、35.0 以上 40.0 未満を肥満 3 度、40.0 以上を肥満 4 度とした。

肥満 1 度以上のものは男性 2,001 人 (35.7 %)、女性 542 人 (19.4 %) であった。

	受診者数	低体重	普通体重	肥満 1 度	肥満 2 度	肥満 3 度	肥満 4 度
		-18.49	18.5-24.9	25.0-29.9	30-34.9	35-39.9	40-
男性(人)	5612	136 (2.4%)	3475 (62.0%)	1649 (29.3%)	290 (5.2%)	49 (0.9%)	13 (0.2%)
女性(人)	2793	340 (12.2%)	1911 (68.4%)	425 (15.2%)	95 (3.4%)	16 (0.6%)	6 (0.2%)

② 血圧

収縮期血圧 134mmHg 以下、拡張期血圧 85mmHg 以下を正常値、収縮期血圧 139mmHg 以下、拡張期血圧 89mmHg 以下を参考基準値とし、「治療中」ではないもので収縮期血圧、拡張期血圧ともに正常値であるものを「異常なし」、いずれかが正常値を超えるものの参考基準値は超えないものを「有所見」とした。

男性の 1,508 人 (26.9 %)、女性の 388 人 (13.9 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 938 人 (16.9 %)、女性 229 人 (8.2 %)、「要医療」のものは男性 160 人 (2.9 %)、女性 39 人 (1.4 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5600	3655 (65.3%)	437 (7.8%)	377 (6.7%)	0 (0.0%)	160 (2.9%)	971 (17.39%)
女性(人)	2782	2253 (82.4%)	141 (5.1%)	119 (4.3%)	0 (0.0%)	39 (1.4%)	230 (8.3%)

③ 心電図

男性の 570 人 (10.2 %)、女性の 138 人 (5.0 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 148 人 (2.7 %)、女性 22 人 (0.8 %)、「要医療」のものは男性 53 人 (0.9 %)、女性 6 人 (0.2 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5583	4289 (76.7 %)	727 (13.0 %)	354 (6.3 %)	51 (0.9 %)	2 (0.1 %)	163 (2.9 %)
女性(人)	2771	2338 (84.4 %)	295 (10.6 %)	106 (3.8 %)	6 (0.2 %)	0 (0.0 %)	29 (0.9 %)

④ 検尿

男性の 1,108 人 (19.8 %)、女性の 1,089 人 (39.3 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 55 人 (1.0 %)、女性 22 人 (0.8 %)、「要医療」のものは男性 100 人 (1.8 %)、女性 20 人 (0.7 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5587	3694 (66.1 %)	785 (14.1 %)	953 (17.1 %)	58 (1.0 %)	42 (0.8 %)	55 (1.0 %)
女性(人)	2771	1162 (41.9 %)	520 (18.8 %)	1047 (37.8 %)	15 (0.5 %)	5 (0.2 %)	22 (0.8 %)

⑤ 肝機能

男性の 2,276 人 (40.7 %)、女性の 461 人 (16.6 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 184 人 (3.3 %)、女性 31 人 (1.1 %)、「要医療」のものは男性 389 人 (7.0 %)、女性 69 人 (2.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5587	2229 (39.9 %)	1082 (19.4 %)	1703 (30.5 %)	284 (5.1 %)	105 (1.9 %)	184 (3.3 %)
女性(人)	2771	1814 (65.6 %)	493 (17.8 %)	361 (13.0 %)	59 (2.1 %)	10 (0.4 %)	31 (1.1 %)

⑥ 脂質異常症

男性の 4,387 人 (78.5 %)、女性の 1,868 人 (67.3 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 808 人 (14.5 %)、女性 300 人 (10.8 %)、「要医療」のものは男性 539 人 (9.6 %)、女性 215 人 (7.7 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5589	1039 (18.6 %)	163 (2.9 %)	3040 (54.4 %)	0 (0.0 %)	539 (9.6 %)	808 (14.5 %)
女性(人)	2777	720 (25.9 %)	189 (6.8 %)	1353 (48.7 %)	0 (0.0 %)	215 (7.7 %)	300 (10.8 %)

⑦ 耐糖能異常

男性の 3,061 人 (54.85 %)、女性の 999 人 (36.0 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 459 人 (8.2 %)、女性 63 人 (2.3 %)、「要医療」のものは男性 183 人 (3.3 %)、女性 31 人 (1.1 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5588	2527 (45.2%)	0 (0.0%)	2419 (43.3%)	107 (1.9%)	76 (1.4%)	459 (8.2%)
女性(人)	2777	1777 (63.9%)	1 (0.1%)	905 (32.6%)	9 (0.3%)	22 (0.8%)	63 (2.3%)

⑧ 尿酸

男性の 1,631 人 (29.3 %)、女性の 37 人 (1.3 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 436 人 (7.8 %)、女性 3 人 (0.1 %)、「要医療」のものは男性 271 人 (4.9 %)、女性 4 人 (0.1 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5587	3947 (70.6%)	3 (0.1%)	930 (16.6%)	0 (0.0%)	271 (4.9%)	436 (7.8%)
女性(人)	2771	2728 (98.4%)	6 (0.2%)	30 (1.1%)	0 (0.0%)	4 (0.1%)	3 (0.1%)

⑨ 血液一般

男性の 748 人 (13.4 %)、女性の 553 人 (20.0 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 22 人 (0.4 %)、女性 49 人 (1.8 %)、「要医療」のものは男性 88 人 (1.6 %)、女性 107 人 (3.9 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5587	3442 (61.6%)	1397 (25.0%)	638 (11.4%)	75 (1.3%)	13 (0.2%)	22 (0.4%)
女性(人)	2771	1538 (55.5%)	680 (24.5%)	397 (14.3%)	25 (0.9%)	82 (3.0%)	49 (1.8%)

⑩ 超音波検査

腹部超音波検査により肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の検査を行った。

男性の 1,910 人 (58.9 %)、女性の 718 人 (44.4 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 14 人 (0.4 %)、女性 8 人 (0.5 %)、「要医療」のものは男性 94 人 (2.9 %)、女性 40 人 (2.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	3242	796 (24.2%)	537 (16.6%)	1802 (55.6%)	93 (2.9%)	1 (0.0%)	14 (0.4%)
女性(人)	1617	637 (39.4%)	262 (16.2%)	670 (41.4%)	40 (2.5%)	0 (0.0%)	8 (0.5%)

⑪ 胸部X線検査

CR装置による直接撮影を行った。

男性の374人(6.7%)、女性の111人(4.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性46人(0.9%)、女性19人(0.7%)、「要医療」のものは男性192人(3.4%)、女性62人(2.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5575	4489 (80.5%)	712 (12.8%)	136 (2.4%)	190 (3.4%)	2 (0.0%)	46 (0.9%)
女性(人)	2737	2341 (85.5%)	285 (10.4%)	30 (1.1%)	62 (2.3%)	0 (0.0%)	19 (0.7%)

⑫ 胃部造影検査

DR装置による直接撮影を行った。

男性の2,202人(41.8%)、女性の924人(37.7%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性17人(0.3%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性220人(4.2%)、女性68人(2.8%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5269	2436 (46.2%)	631 (12.0%)	1965 (37.3%)	206 (3.9%)	14 (0.3%)	17 (0.3%)
女性(人)	2454	953 (38.8%)	577 (23.5%)	856 (34.9%)	67 (2.7%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)

⑬ 骨密度検査

DXA法により第2～第4腰椎正面の骨密度を測定した。

男性の10人(45.5%)、女性の195人(80.6%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性27人(11.2%)、「要医療」のものは男性3人(21.1%)、女性26人(10.7%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	22	11 (50.0%)	1 (4.5%)	7 (31.8%)	3 (13.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	242	46 (19.0%)	1 (0.4%)	142 (58.7%)	26 (10.7%)	0 (0.0%)	27 (11.2%)

3) 婦人科検診

① 乳がん検診

乳がん検診として、視触診とマンモグラフィ、乳房超音波検査とを行った。

乳がん検診の総受診者数は2,002人であった。前年度に比べ105人の増加であり、乳がん検診の無料クーポン券配布による効果がまだ続いていると考えられた。また、マンモグラフィ受診者は1,559人であった。

乳がん検診受診者の221人(11.0%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療

中」のものは23人(1.2%)、「要医療」のものは116人(5.7%)であった。マンモグラフィも実施したものに限り、82人(5.4%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは8人(0.5%)、「要医療」のものは73人(4.7%)であった。

乳がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2002	684 (33.8%)	1097 (54.3%)	85 (4.24%)	116 (5.7%)	0 (0.0%)	20 (1.0%)
マンモグラフィ	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1559	553 (35.5%)	927 (59.3%)	1 (0.1%)	73 (4.7%)	0 (0.0%)	8 (0.5%)

② 子宮がん検診

子宮がん検診として、子宮頸部細胞診と婦人科診察、経膈超音波検査を行った。子宮頸部細胞診ではclass I、IIを正常とし、class IIIa以上を「要精検」とした。

子宮がん検診の受診者数は1,896人であった。

受診者の349人(18.7%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは25人(1.3%)、「要医療」のものは224人(12.0%)であった。また、子宮頸部細胞診でclass IIIa以上の「要精検」であったものは22人(1.2%)であった。

子宮がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1868	1519 (81.3%)	0 (0.0%)	91 (4.9%)	133 (7.1%)	91 (4.9%)	24 (1.3%)
細胞診	受診者数	class I	class II	class IIIa	class IIIb	class IV	class V
女性(人)	1868	1 (0.1%)	1845 (98.8%)	19 (1.0%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

2. 脳ドック

脳ドックの受診者数は314人(男性225人、女性89人)であった。

男性の23人(10.2%)、女性の8人(9.0%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性1人(0.4%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性15人(6.7%)、女性6人(6.7%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	225	116 (51.6%)	86 (38.2%)	7 (3.1%)	15 (6.7%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)
女性(人)	89	44 (49.4%)	37 (41.6%)	2 (2.2%)	6 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

3. らせんCT胸部検診

らせんCT胸部検診は、肺がんの早期発見に威力を発揮することが注目されて普及し、着実に受診者に浸透しつつある。今後も慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患の早期発見や、禁煙への動機づけにも有効であるため、普及啓発に今後とも力を注いでいくことが重要とされている。

らせんCT胸部検診の受診者数は229人（男性195人、女性34人）であった。男性の33人（16.9%）、女性の7人（20.6%）が「要観察以上」であり、「要医療」のものは男性13人（6.7%）、女性5人（14.7%）であった。「治療中」のものはいなかった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	195	42 (21.5%)	120 (61.5%)	20 (10.3%)	13 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	34	4 (11.8%)	23 (67.6%)	2 (5.9%)	5 (14.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

6 普及啓発事業

(1) 財団の広報

ホームページの更新、広報誌の発行、他団体広報誌へ記事の提供等を通して、財団の広報に努めた。

1) 広報誌の発行

広報誌「健康と環境」を年3回発行し、事業の紹介と県民の健康づくり、環境保全に関する意識の高揚を図った。

- ・発行部数 第65号 5,000部 (4月30日発行)
第66号 5,000部 (8月31日発行)
第67号 5,000部 (12月31日発行)
- ・主要配布先 県、市町村、教育委員会、学校、警察署、保健所、近隣町内会、医師会、病院協会、福祉施設、事業所等

2) ホームページ更新

財団ホームページに、財団の事業紹介、健康情報・生活環境に関する情報提供、セミナーや教室の案内、各種行事の予定等を随時更新し、紹介した。

(2) 結核予防に関する事業

結核は、60年前までは、死亡原因の第一位であったが医療や生活水準の向上により、薬による完治が可能になった。しかし依然として岡山県においても年間200名以上の患者が発生する重大な感染症であることから啓発活動を行っている。

1) 広報・募金活動

結核予防思想の普及と事業資金確保のため世界中で行われている複十字シール運動(8月1日～12月31日)について、県、市町村及び岡山県愛育委員連合会の協力を得て、積極的に普及啓発活動及び募金活動を実施した。また結核予防週間(9月24日～30日)を中心に結核予防に関するポスター(2,900部)等の広報資材を、保健所、市町村、病院等を通じて広く県民に配布し啓発に努めた。

期間中の大規模な街頭活動として、9月12日 JR 岡山駅において、県や市、岡山県愛育委員連合会、岡山県診療放射線技師会と共催で街頭キャンペーンを行った。このキャンペーンでは、無料検診や結核撲滅の呼びかけを行うとともに、チラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材(3,000組)を活用し募金を呼びかけた。

- ・募金額 2,371,360円（平成28年3月31日現在）
- ・募金の使途 胸部疾患予防思想の普及啓発事業

2) 知事表敬訪問

7月30日、全国一斉複十字シール運動開始にあたり、理事長が岡山県愛育委員連合会長とともに、知事を表敬訪問し運動への理解と協力を要請した。

(3) がん予防に関する事業

1) 「岡山対がんシンポジウム2015」の開催

5月30日、ピュアリティまきびにおいて岡山県・岡山県医師会・岡山県愛育委員連合会・岡山県看護協会との共催で、「働きざかり世代（ミドルエイジ）のがんを考えよう」をテーマに、岡山対がんシンポジウム2015を94名の参加のもと開催した。

2) 「がん征圧岡山県大会」の開催

9月2日、岡山衛生会館において岡山県、県医師会と共催で、「健康が 自慢のあなたも がん検診」をスローガンに、がん征圧岡山県大会を開催した。約600名の参加を得て、がん予防事業功労者への表彰や研究助成金の贈呈、がんやがん検診に関するシンポジウムなどがん予防に関する啓発活動を行った。

3) キャンペーン放送の実施

がん征圧月間中を中心に、テレビ・ラジオ放送において広報活動を行った。

4) その他の啓発活動

岡山の女子サッカークラブ「岡山湯郷 Belle」とがん征圧運動推進に関する協定を締結し、女性のがん（乳がん・子宮頸がん）検診啓発のポスターや啓発資材を作成。市町村・病院・大学等へ配布し、がん予防の啓発に努めた。

また、9月18日、シティーライトスタジアムの湯郷 Belle ホームゲームにおいてがん検診の啓発活動を行った。

5) 募金

がん予防を推進するために協力を呼びかけ、633件3,478,388円の募金等を頂いた。

(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）

1) 街頭キャンペーンの実施

5月31日の世界禁煙デーに、岡山駅、津山駅等で、県・市町村職員、愛育委員、禁煙アドバイザー等の協力を得て街頭活動を行い、啓発チラシ（19,758枚）、ポケットティッシュ（26,399個）を配布し、禁煙を呼びかけた。

2) ポスターコンクールの開催

県下の小学校4年生～6年生を対象に、禁煙啓発ポスターコンクールの作品を募集した。7校から83点の応募作品があり、入賞者8名を9月のがん征圧岡山県大会で表彰した。入賞作品を掲載したカレンダー（2,800枚）を作成し、県、市町村、県警及び県下の学校等関係機関へ配布した。

3) 講師の派遣

教育機関、一般企業等で開催された禁煙に関する研修等に、医師を講師として派遣し禁煙の啓発に努めた。

4) 教材等の貸出

たばこの害についてのチラシの配布や、スモーカーライザーを貸し出し、教育機関や一般企業独自の啓発活動を支援した。

5) 募金

禁煙普及啓発を推進するために、当協議会に345件508,000円の募金を頂いた。

(5) 「健康おかやま21」への参加

生活習慣病改善による健康づくりの推進を目的としており、またメタボリックシンドロームに注目があてられている中、生活習慣病予防の普及に努めた。

(6) 助成事業

1) がん助成

がんに関する研究・研修事業に対して対がん基金による助成を行った。

- ・EBUS-GS およびナビゲーションシステムを用いた気管支鏡検査の早期肺癌診断への有用性に関する研究

岡山大学病院 血液、腫瘍、呼吸器内科・緩和支援医療科

助教 南 大輔 氏

- ・子宮体癌の遺伝子背景と臨床像の調査およびリンチ症候群関連子宮体癌のスクリーニング法の検討

岡山大学病院 産科婦人科

医員 春間 朋子 氏

- ・癌治療の新たなターゲットを見出す

川崎医科大学 生化学教室

准教授 山内 明 氏

2) 健康づくり関係団体への助成

県民の健康づくりを推進している、岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会等の関係団体に助成を行った。

(7) 会議等の開催

区 分	開催 年月日	会 場	議 題
会計監査	H27. 5. 25	岡山県南部健康づくりセンター 小会議室	1. 平成26年度決算について
会計・業務監査	H27. 5. 29	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 平成26年度事業実績について 2. 平成26年度決算について
第1回理事会	H27. 6. 12	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成26年度各事業実施及び収支決算 について 2. 公益財団法人JKA補助による検診車整 備補助事業について
定時評議員会	H27. 6. 29	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成26年度各事業実施及び収支決算 について 2. 評議員の選任について 3. 理事の選任について
臨時理事会	H27. 6. 29	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 理事長（代表理事）及び専務理事（業務 執行理事）の選定について
第2回理事会	H28. 3. 29	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成27年度各事業計画及び収支予算案 について
みなし決議	H27. 11. 16	—	1. 評議員の選任について

事業年報 平成 27 年度

発行 公益財団法人 岡山県健康づくり財団
〒700-0952 岡山市北区平田 408-1
TEL 086-246-6254 FAX 086-246-6258
E-mail : zaidan@okakenko.jp